

農村 RMO の取組の推進に向けた全国研修会

1. 開催日時 令和7年10月22日（水）9：00～12：00

2. 開催場所 赤坂ビジョンセンター及びWEB

東京都千代田区永田町1丁目11番28号 合人社東京永田町ビル8階

3. 開催方針

（1）対象者

多面的機能支払の活動組織及び都道府県推進組織の関係者

（2）趣旨等

各都道府県や地域の抱える課題について、活動を推進する立場にある担当者間で意見交換を行い、相互に有益な知見の共有等を図る。

4. 次第

9:00 開会（冒頭挨拶）全国土地改良事業団体連合会 土地改良研究所長 親泊 安次

9:05 挨拶 農林水産省 多面的機能支払推進室 課長補佐 松田 賢吾 氏

9:10～9:30 講演① 農村 RMO の取組みとこれから

- ・講師：本山町まちづくり推進課
課長補佐 和田 耕一 氏
- ・内容：農村 RMO の取組みとこれから

9:30～9:50 講演② 多面的機能活動組織と農村 RMO との連携

- ・講師：周世美しい村づくり活動組織
会長 尾崎 治男 氏
- ・内容：多面的機能活動組織と農村 RMO との連携

9:50～10:10 講演③ 農村 RMO に向けた取組について

- ・講師：特定非営利活動法人 みんなの集落研究所
首席研究員 阿部 典子 氏
- ・内容：話し合いの進め方等

※ここで web 配信は終了となります。

10:10～10:20 休憩

10:20～12:00 意見交換会 12 グループ（5～6名）程度

テーマ「地域内の他組織との連携を進める上での課題と解決策について」

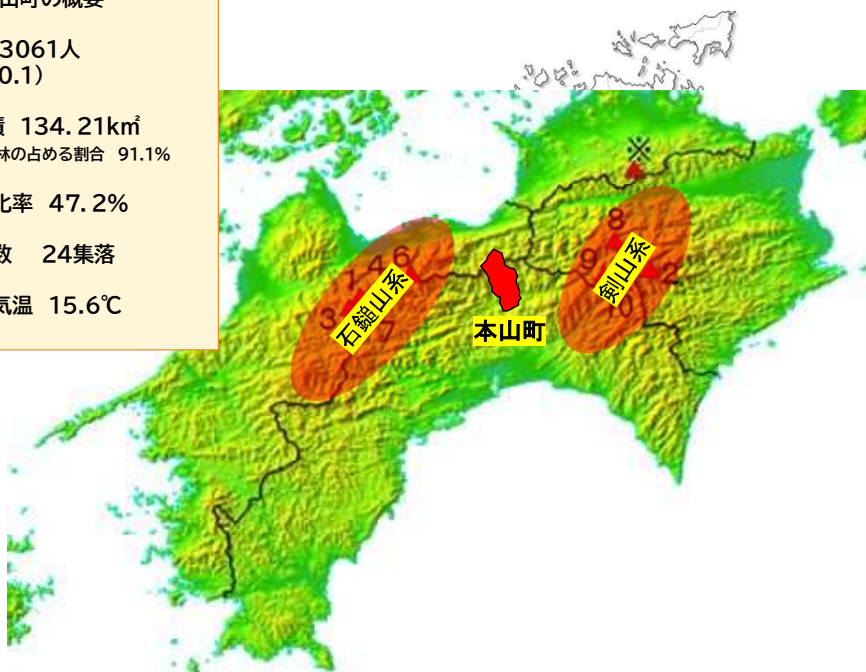
農村RMOの取組みとこれから

本山町農村みらい会議
土佐天空の郷保全会

1

高知県 本山町の概要

- ❖人口 3061人 (R7.10.1)
- ❖総面積 134.21km²
※山林の占める割合 91.1%
- ❖高齢化率 47.2%
- ❖集落数 24集落
- ❖平均気温 15.6℃



土佐天空の郷 本山町

2

2

経営基盤は昔ながらの棚田



土佐天空の郷 本山町

3

3

春



土佐天空の郷 本山町

4

4



秋

土佐天空の郷 本山町

5

5

本山町の主な農産物



米



パプリカ



土佐あかうし



原木椎茸



しょうが



米ナス

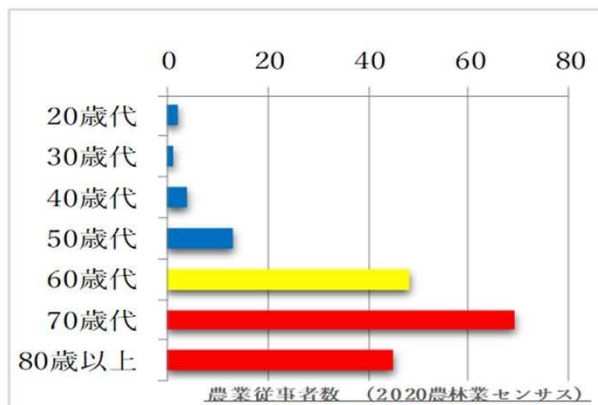


土佐天空の郷 本山町

6

6

高齢化の進む農業現場



年齢別基幹的農業従事者数(個人経営体)							
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
農業従事者数	2	1	4	13	48	69	45



土佐天空の郷 本山町

7

7

本山町が活用する『日本型直接支払制度』

【多面的機能支払交付金】

組 織：土佐天空の郷保全会
 範 囲：本山町全域
 事務局：(一財)本山町農業公社
 予算額：17,833千円
 農地維持 5,685千円
 資源向上
 (長寿命化) 8,191千円
 (共同活動) 3,957千円

【中山間地域等直接支払交付金】

組 織：集落協定(17組織)
 範 囲：組織内で決定
 事務局：それぞれの集落協定
 予算額：49,410千円
 ※ 17組織の面積・取組み
 ごとに配分

【環境保全型農業直接支払交付金】

組 織：3団体
 (有機2件、堆肥1件)
 範 囲：組織内で決定
 事務局：それぞれの組織
 予算額：4,237千円

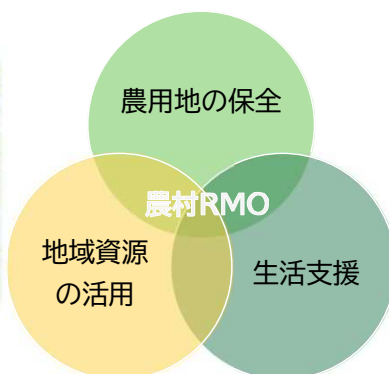
土佐天空の郷 本山町

8

8

本山町が農村RMOに取り組む

『きっかけと目的』



土佐天空の郷 本山町

9

9

本山町農村みらい会議

【総 会】

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事。
- (2) 事業計画に関する事。
- (3) 事業報告に関する事。
- (4) 役員の選任に関する事。
- (5) 会議の解散
- (6) その他重要な事項に関する事。

【役員・構成員等】

会 長 澤田和廣
副 会 長 高橋清人
監 査 川村隆重・畠山憲明

事 務 局 本山町まちづくり推進課
事務局長 田岡 明

【構成組織】

一般財団法人本山町農業公社 / 社会福祉法人本山町社会福祉協議会 / 土佐天空の郷保全会 / 本山町内で組織する集落活動センター / 本山町内で組織する集落協定 / 本山町内で組織する集落営農団体 / 本山町役場

【会議推進員】

住民参加のワークショップを開催し、広く意見を集約して、将来ビジョンを策定し、総会へ提案する。



【サポートチーム】

(高知県)
農業政策課、地域支援企画本部、嶺北農業改良普及所

(町)
まちづくり推進課



土佐天空の郷 本山町

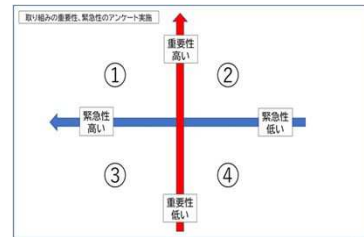
10

10

【ワークショップの進め方と将来ビジョンの策定】

(ワークショップの進め方)

- ① キックオフイベント(講演会)
- ↓
- ② 第1回 ワークショップ
テーマ「理想の本山町を考える」
- ↓
- ③ 3つのテーマに整理
- ↓
- ④ 第2回 ワークショップ
「何のために」「どんな事を」「いつ頃に」「誰が実施する」
- ↓
- ④ 第3回 ワークショップ
実証内容の骨格を確認
「重要度」と「緊急度」の2軸で意見収集
将来ビジョンのキャッチフレーズ決定



土佐天空の郷 本山町

11

11

【将来ビジョン】

キャッチフレーズ：「人から人へ未来につなげる本山町」

(実証の骨格)



【農地保全】 農業で生活出来る町に！ 美しい棚田の残る町に！

【①機械導入・機械共同利用・スマート農業】【②農業組織づくり・組織強化】【③農産物の付加価値化】【④遊休農地活用】【⑤農観連携】

【地域資源の活用】 いつまでも自然豊かな美しい町に！ 交流人口の行き交う町に！

【①地域食材の活用及び加工品開発】【②地域資源を観光に繋げる取り組み】【③自然を活用した場所づくり】【④景観保全の取り組み】【⑤情報発信】【⑥飲食店開店 宿泊施設】【⑦学びの場づくり】【⑧交流イベントの開催】【⑨市街地の活性化】

【生活支援】 豊かにいつまでも暮らせる町に！ 地域の助け合いで安心して暮らせる町に！

【①教育・子育て充実】【②仕事の場の充実】【③高齢者に向けた取り組み】【④中心街の充実】【⑤若者の場づくり】【⑥移住者との連携】【⑦公共施設の充実】【⑧集い、憩いの場づくり】【⑨公共交通の充実】【⑩住宅の充実】

将来ビジョンの内容を
提案する会議推進員

土佐天空の郷 本山町

12

12

【具体的に実証する内容】

(農地保全)		(地域資源の活用)	
緊急性・重要性	取組内容	緊急性・重要性	取組内容
緊急性が高い 重要性が高い	農業で食べていける仕組みづくり 人材バンク(助っ人)の仕組みづくり 農業機械の共同化(レンタル)の仕組みづくり 農地保全の取り組み 地域のまとまり、交流する場づくり	緊急性が高い 重要性が高い	美しい景観の情報発信の取り組み 河川、棚田近くの伐採更新の取り組み アウトドアの町SNS発信の取り組み 情報ネットの整備 産業振興センター(四季菜館)の利用検討 交流の場づくり
	研修、農業を教える場づくり 草の再利用の仕組みづくり 防草対策の仕組みづくり 貸し農園の仕組みづくり		観光拠点、案内所の設置 泊まる場所の整備 第二の汗見川集落活動センターづくり ガイドさんづくり 花木を川沿いに植栽する取り組み 登山道の整備 観光放牧の取り組み 温泉施設の整備 冬のアートイベントの開催
(生活支援)		緊急性が低い 重要性が高い	
緊急性・重要性	取組内容	緊急性が低い 重要性が高い	取組内容
緊急性が高い 重要性が高い	お仕事バンクの仕組みづくり 住宅バンクの仕組みづくり 情報ネットの整備 産業振興センター(旧四季菜館)の利用検討 交流の場づくり 高齢者、障害者の買物支援 障害のある家族が集える場所、相談の場づくり (教育)地域学習の取り組み	緊急性が低い 重要性が高い	バギーコースの整備 レンタカーの設置 ふれあい牧場の整備
	資源活用リサイクルの取り組み このワークショップを各地域に周知する取り組み 各集落の公民館機能強化の取り組み		

土佐天空の郷 本山町

13

13

【交付金の流れ】

【農村型地域運営組織形成推進交付金】

3年間の総額 29,874,185円 ※事業対象外経費180,673円含む

【令和4年度】

交付金 1,825,472円

「将来ビジョンの策定」
会議推進員(9名)の選定
持続可能な地域社会総合研究所
藤山氏の講演
ビジョン作成のワークショップの開催
校の本現地踏査
農地の未来予想図作成
刈払講習会
など

【令和5年度】

交付金 10,289,040円

「農用地保全」
ブランド米販売促進活動、農産物商談会参加、農業機械共同化に向けた仕組みの検討
「地域資源の活用」
景観を保ちつつ、草刈の軽減となるよう芝桜を植栽できた。また、交流人口の増加を目指し、イベント開催(4回)に繋がった。
「生活支援」
SNSの勉強会でお仕事バンクの設立に向けた意見交換の開催し、関係者間で理解を深めた。直販所へ集出荷支援実施。

【令和6年度】

交付金 17,579,000円

「農用地保全」
スマート農業の活用(水路管理)、畦畔防草対策、ブランド米販売促進活動、農業機械共同化に向けた仕組みの検討。
「地域資源の活用」
交流イベントの開催、自然を活用した場所づくり、市街地の活性化の取り組みを実施。
「生活支援」
高齢農家の野菜などを直販所へ集出荷する支援を実施。

土佐天空の郷 本山町

14

14

【実証活動】 畦畔の防草対策



①芝桜の植栽

雑草の生命力が強く芝桜は失敗



②畦畔の焼却



③センチビートグラス吹付



一年後の現地

土佐天空の郷 本山町

15

15

【実証】 畦畔の防草対策



防草対策
(実施前)



防草対策
(実施1年後)

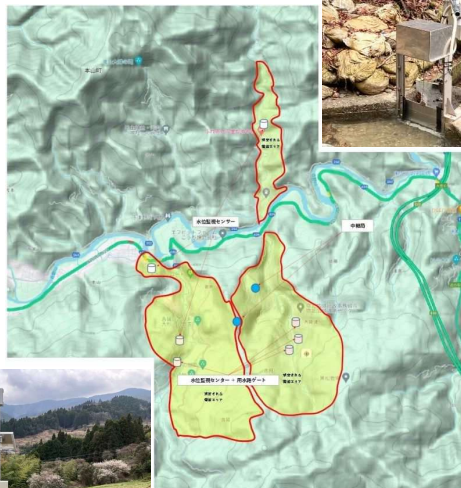
土佐天空の郷 本山町

16

【実証活動】スマート農業の取組み



電波網
(LPWA)
構築



土佐天空の郷 本山町

17

17

地域循環型農業の取組み

【本山町堆肥センター】

- R6 四国初の牛糞ペレットの生産設備完成
- R7 牛糞ペレットの製造調整
- R8 牛糞ペレット販売開始(JA)



高知県本山町

土佐天空の郷
生産

牛ふん
ペレット

土づくり
稲わら

土佐
あかうし

【ブランド米 土佐天空の郷の生産】

- R8～ 牛糞ペレットの活用開始(土佐天空の郷)
- 【効果】 地力の回復・生産コスト削減



【畜産農家】

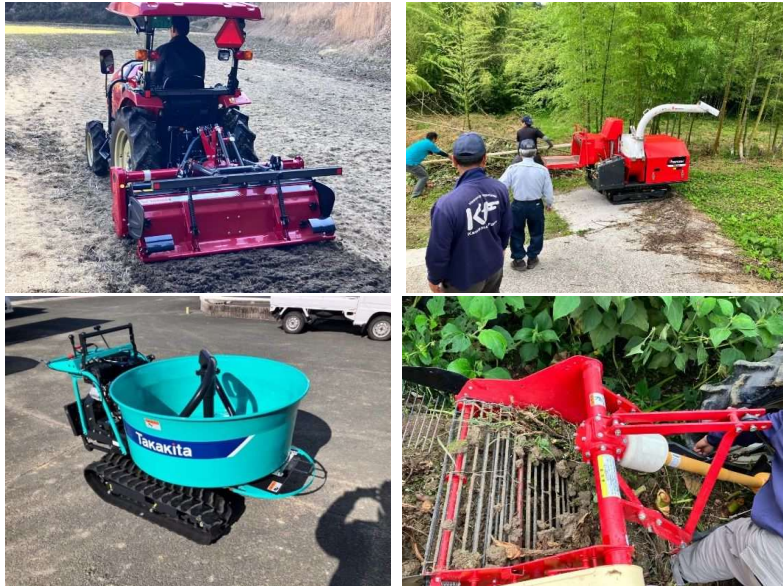
堆肥処理の負担軽減、稲作農業との連携

土佐天空の郷 本山町

18

18

農業機械の共同利用(レンタル)取組み



土佐天空の郷 本山町

19

19

地域資源の活用・生活支援

農産物直販所「本山さくら市」を中心にイベントを開催



イベント開催で交流人口の拡大



地元高校生の商品開発



景観づくり

お仕事バンク勉強会



土佐天空の郷 本山町

20

【本山町農村みらい会議の継承 とこれから】

中山間地域等直接支払交付金
を受ける
町内全17協定

大石集落協定
吉延集落協定
高角集落協定
下津野集落協定
古田・権代集落協定
松島・木能津集落協定
助藤集落協定
上関集落協定
下関集落協定
日浦集落協定
栗ノ木集落協定
内野集落協定
坂本集落協定
屋所集落協定
瓜生野集落協定
七戸集落協定
沢ヶ内集落協定

拠出

年間
約800万円
(試算額)

本山町農村みらい会議

(目的)

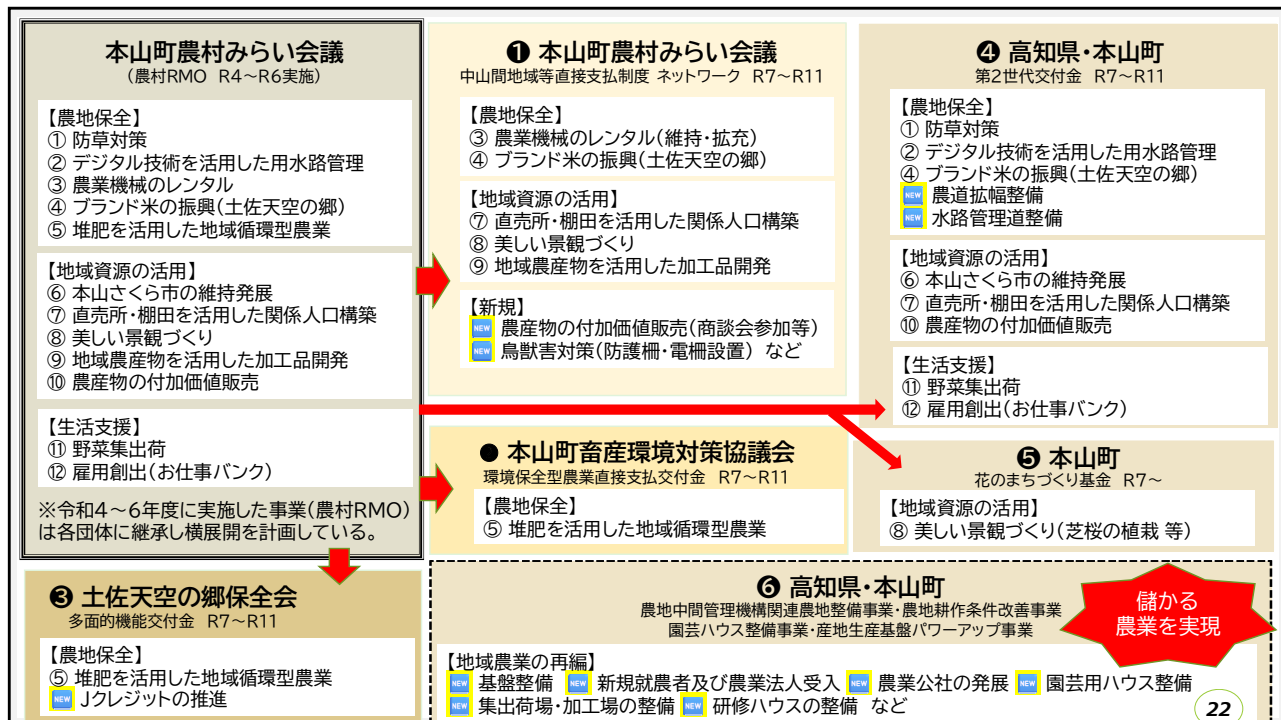
担い手の高齢化による集落の衰退や農地の放棄を防ぎ、農業生産活動の持続性を確保することを目的に強固な共同体制を築き、将来にわたって農業生産活動が継続されるような体制を強化します。また、多様な組織の参画を促進し、地域全体の持続的な発展に貢献することとします。

(事業計画)

- 1、農業機械共同利用(本山町機械銀行)の実施
- 2、ブランド米の振興(土佐天空の郷)を支援
- 3、地域農産物の付加価値販売を目指す活動を支援
- 4、棚田を活用した関係人口構築
(棚田散策ツアーなど)する活動を支援
- 5、地域農産物を活用した加工品開発
- 6、その他

土佐天空の郷 本山町

21



儲かる
農業を実現

22

22



1



2

目次

1. 周世地区の位置
2. 周世地区の概要
 - ・農用地の利用状況、地域活動、組織
 - ・周世土地利用組合の活動 等
3. 周世美しい村づくり活動組織の状況
(多面的機能支払交付金活動組織)
4. 農村RMOとの連携
5. 最後に



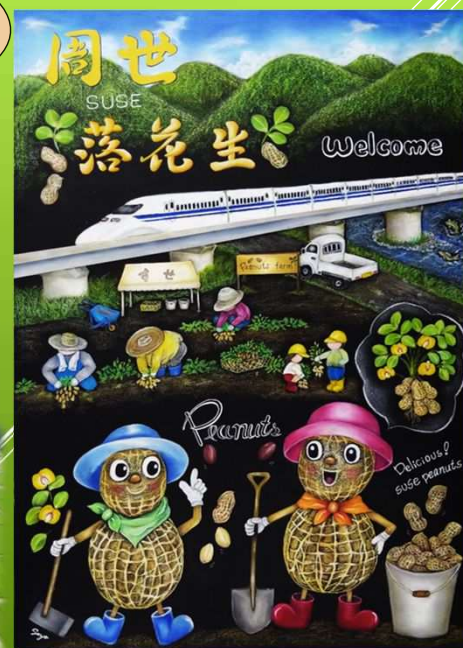
陣たくんが
紹介します



アサギマダラ



圃場整備後の農地



3



1. 周世地区の位置

赤穂市

兵庫県の南西部に位置し、市中央を千種川が流れている。瀬戸内海に面し、気候も温暖で雨量が少ない瀬戸内海型気候で、城下町として発展。令和元年に「塩の国」として日本遺産に認定。

- ・面積：126.85km²
- ・世帯数：20,603戸
- ・人口：43,594人



周世

赤穂市の北西部に位置し、地区の南には二級河川千種川、北には高雄山があり、自然豊かな地域である。古墳もあり古くから、農業が営まれていた地域である。近年は、少子高齢化が顕著で後継者育成が課題になっている。

- ・面積：460ha
- ・世帯数：74戸
- ・人口：231人



【凡例】
集落境界

4



2.周世地区の概要

◆面積 約460ha 人口 231人 世帯数 74世帯

◆概要

周世地区は、赤穂市北部の市街化調整区域でJR山陽本線有年駅とJR赤穂線坂越駅の間に位置し、圃場整備も完了（平成元年）した農業振興地域である。

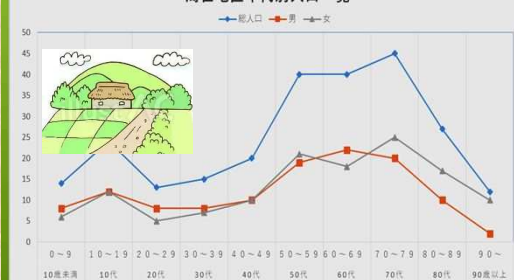
農用地の施設管理や概要農村の良好な環境を保全するために平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施しているが、農地の33haは、圃場整備後40年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。また、山間部の田畑は、引水や不整形地等の耕作困難地であるため耕作放棄地が発生するとともに、従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっている。

2地区にまたがる赤穂市の自然環境活用・保全エリア内の「赤穂ふれあいの森」は、地域の活性化や環境保全を創出する施設であるが、施設の老朽化や維持管理に従事する人数の減少や高齢化により維持管理が困難になってきている。これらの背景には、人口減少や少子高齢化が進み、空き家の増加や過疎化、農業従事者の後継者・人材不足があるが、農用地保全や高齢者が安心して暮らせる環境づくりが課題となっている。

そこで、農村RMO事業を活用し、周世地区・有年横尾地区の組織を統括再編し、連携する組織体を形成し、農用地保全・地域資源活用・生活支援に取組む体制を整備すべく取り組んでいる。

周世地区地籍		(R5.1.1時点)
登記地目	筆数	地籍 (㎡)
宅地	167	60,557.29
田	401	399,920.73
畑	185	48,843.89
原野	35	27,564.47
山林	575	3,506,713.47
その他	657	565,504.48
計	2,020	4,609,104.33

周世地区年代別人口一覽

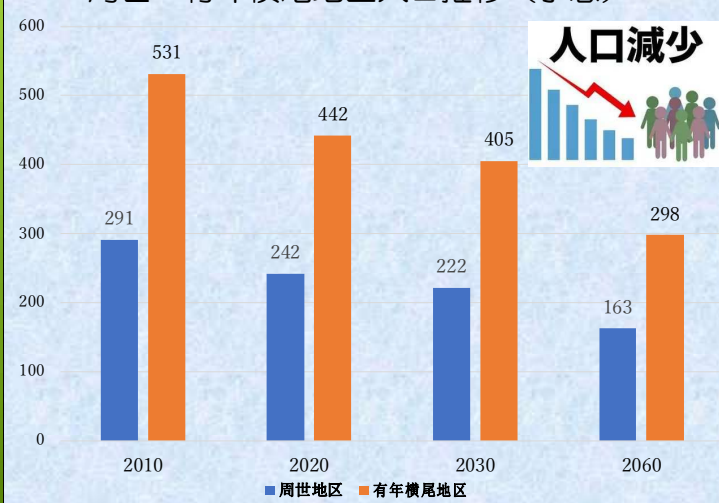


5



■地区人口の現状と推移

周世・有年横尾地区人口推移（予想）

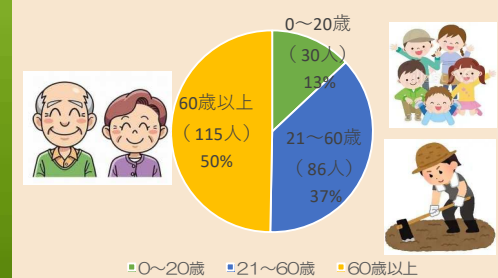


資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より按分

周世地区年代別人口一覽



0～20歳，21～60歳，60歳以上



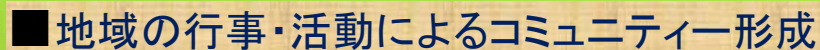
6



7



8



-

元旦登山



黒豆収穫祭



落花生收穫祭



親睦旅行



秋祭の



もみに祭り



百歲體操



ふれあい納涼祭



道づくり

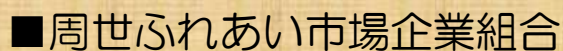


とんと祭



堤防の草刈り

9



- ・スタッフ13名（地区内6名、地区外5名、男性2名）
- ・主な事業：農産物加工品、手作り食品事業、農産物直売事業
- ・開催日時：毎週日曜日、木曜日 午前8時から午後4時
- ・開催場所：周世ふれあい市場

農村女性グループ初



「皆さん、こんにちは。メンバーが揃いました。『だれもが安心して仕事を取れる、人間関係にいいところ』を口癖とする『産業新聞』の来月 事業拡大、継続目指す

企業組合が誕生

個が参加しやすい「協組」を設立するようになった。地場野菜の非当たら
や高齢者の無い場合には商売経験などの事業運営をたつて、組織を法人化する
ところ若い世代が入りやすい体制を構築する。農村をなぐさルールによる企業組合
運用に初めて。(辻本一矩)

10



事業内容

①直売所部門

②喫茶部門

③仕出し部門

◆ 3部門あります。

①直売所部門

②喫茶部門

③仕出し部門

◆ 集落の高齢者が気軽に食べれる「真心価格」です。












11



圃場整備事業

昭和50年航空写真





令和5年航空写真





周世集落営農センター



記念碑

【事業概要】

事業名： 周世地区土地改良事業

施工期間： 昭和58年度～平成元年度

施工面積： 32.8ha

事業費： 255,220千円

農家戸数： 73戸

12



■周世土地利用組合の活動

事業展開のフィールド

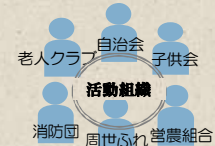
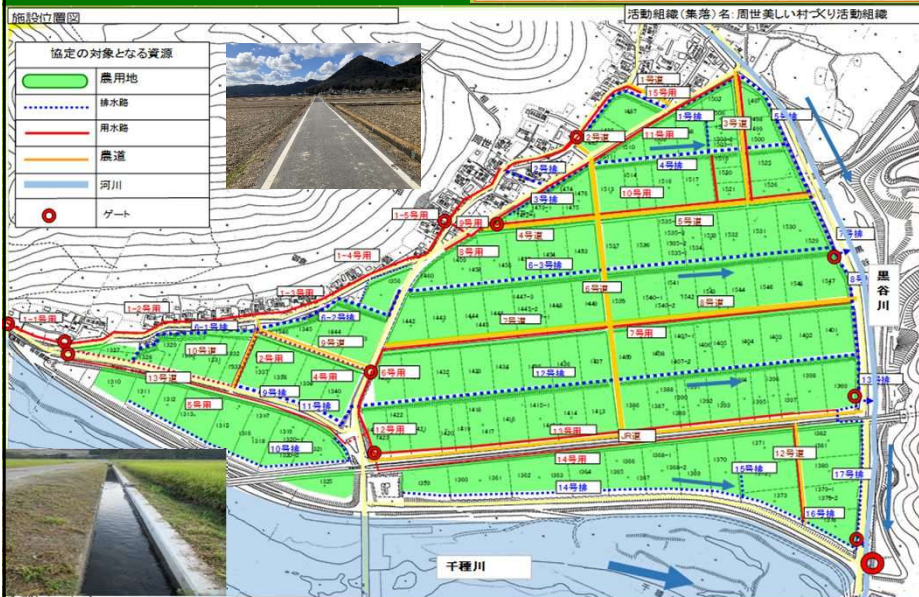
- ・圃場整備完了年度：平成元年
- ・事業面積：約33ha（内21ha）
- ・組合員：69名
- ・作付け品種、面積
 - 米：12.9ha、小麦：11.1ha、大豆：4.2ha、黒大豆：0.9ha
- ・所有農機具：コンバイン 2台
トラクター 3台
田植え機 2台 他
- ・令和6年度会計
 - 収入総額 約27,082千円
 - 支出総額 約25,642千円
 - 繰越利益 約43,872千円（資産含む）
- ・施設の維持管理
 - 多面的機能支払交付金
- ・商品開発
 - 西播磨ブランド
 - 育成・創造支援事業



13

3. 周世美しい村づくり活動組織 （赤穂市周世）

令和7年度多面的機能支払交付金
対象面積（3,261a）
■農地維持・資源向上（共同）交付金1,565,280円
■資源向上（長寿命化）交付金1,046,781円



【構成員】 あい市場
（農業者15名、以外57名、営農組合）
【目 標】

地域住民が協力して農業用施設の管理や補修、あるいは生き物調査や田んぼダムへの参画などによって農用地の多面的機能の発揮を促進する。

活動内容

- ・機能診断
- ・溝掃除、除草剤散布
- ・堤防の草刈り（外来種駆）
- ・堤防の草焼
- ・生物調査
- ・水門の操作、点検
- ・鳥獣害策の設置、修繕
- ・水路の目地補修
- ・農道舗装
- ・水路改修
- ・田んぼダム

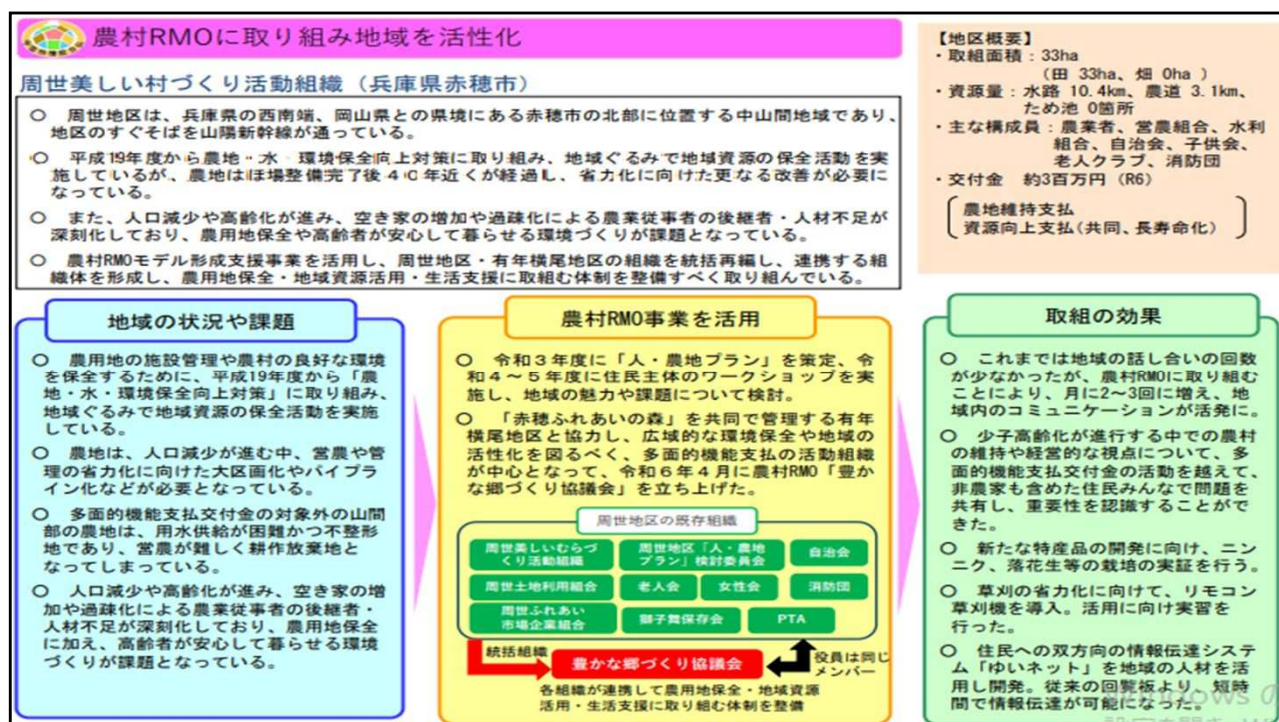
14



15



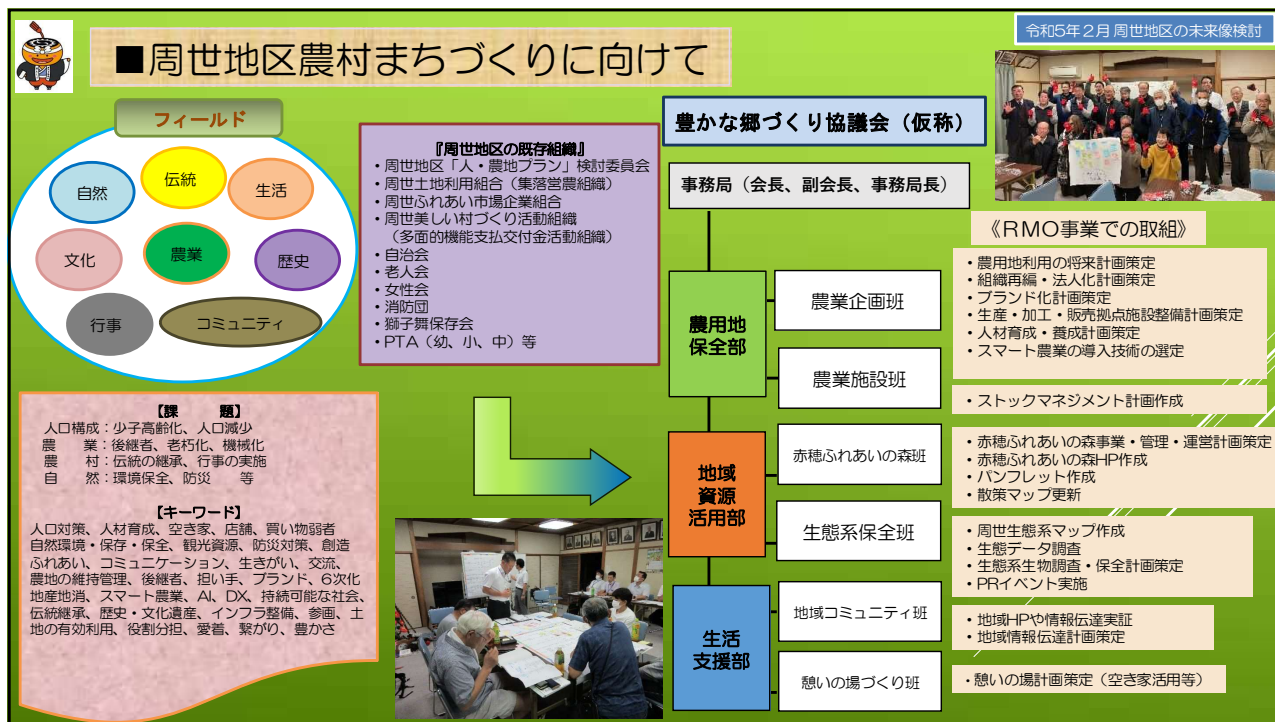
16



17



18



19



20



■豊かな郷づくり協議会のスタート（農村地域運営組織：RMO）



21

《農村RMOとは》

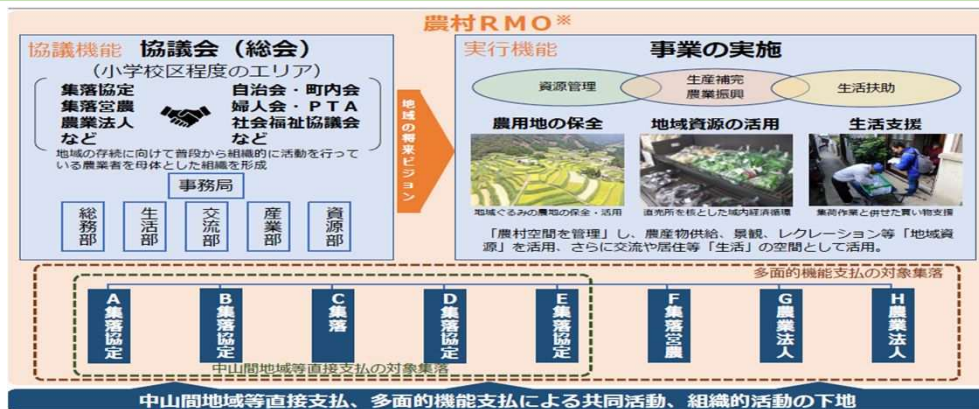
○地域運営組織（RMO: Region Management Organizationの略）

地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。（例）〇〇まちづくり協議会、〇〇地域づくり協議会、〇〇地域協議会、〇〇地域運営協議会等

○農村型地域運営組織（農村RMO）

複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織。（※農村RMOは、RMOの一形態と整理）

※複数の集落による集落協定や農業法人など農業者を母体とした組織と、自治会、社会福祉協議会など多様な地域の関係者とが連携して協議会を設立



※全国での取組状況
R5着手:28地区
R6着手:30地区
R7着手:35地区
(令和7年9月現在)

22

R6着手 すせ うねよこお さど あこし

農村RMOモデル形成支援 周世・有年横尾地区 豊かな郷づくり協議会（兵庫県赤穂市）

スマート農業の導入により効率化や省力化に努め、自助・共助による農村の継続を目指す。情報伝達システムや古民家利用による円滑なコミュニティが図れる地域社会の形成を目指していく。

#組織の法人化 #スマート農業の導入 #人材育成 #地域資源の保全 #地域版情報伝達のデジタル化 #古民家・遊休地の利活用

対象地域

(事務局名)
豊かな郷づくり協議会
(地域の範囲)
その他（2集落）
(土地面積 (R5.4月時点))
697ha
(農地面積 (R5.4月時点))
55ha
(世帯数 (R5.4月時点))
316戸

構成員

- ・周世自治会
- ・有年横尾自治会
- ・周世土地利用組合
- ・周世ふれあい市場組合
- ・赤穂ふれあいの森運営管理組合
- ・周世美しい村づくり活動組織

活動に関連する他の施策

- ・多面的機能支払交付金
- ・西播磨ブランド育成・創設支援事業

取組内容	現状と課題	課題に対する対応方針	目指す方向性(将来ビジョンより)
農用地の保全 ・農地は、ほ場整備後40年が経過し、高齢化が進み維持管理に多額の費用と人手がかかっている。 ・後継者不足や高齢化による農業経営組織の弱体化、設備投資や維持管理資金確保等の要因により継続性に不安がある。	●「赤穂ふれあいの森」の利用者は、コロナ禍と比較して戻りつつあるものの、施設の老朽化等による安全性確保や魅力低下に課題が残る。 ●土地開発の影響等により、虫や水生生物等の減少がみられ、生態系の形成が弱れている。	●「地域計画」作成を通じ、農地集約化や将来の農地利用の姿を明確化し、土地利用組合の組織強化や法人化に向けて着実に進める。 ●スマート農業導入や生産ノウハウのマニュアル化等により、持続可能な組織や運営を構築する。	●農地を大規模化し、スマート農業導入による省力化。 ●6次産業化確立のために、農業関連団体の連携による持続可能な組織の構築。 ●組織経営の安定化を図るための特産品の開発。
地域資源活用	●「赤穂ふれあいの森」の利用者は、コロナ禍と比較して戻りつつあるものの、施設の老朽化等による安全性確保や魅力低下に課題が残る。 ●土地開発の影響等により、虫や水生生物等の減少がみられ、生態系の形成が弱れている。	●「赤穂ふれあいの森」の現状把握を行い、活用しやすいシステムと体制を構築する。新規の魅力ある事業を展開しつつ、自然環境や地域資源を保全していく。 ●生態系調査により、地域資源として保全・繁殖の地盤を形成する。	●赤穂ふれあいの森の施設等の活用・維持管理・運営のシステムと体制を構築。 ●地域の魅力を情報発信し、イベント等を通じて、豊かな地域資源を保全しつつ、集客事業を展開。
生活支援	●少子高齢化と人口減少により、未利用地や空き家が増え、地域の活力や地域活動が低下してきている。 ●人材不足やコミュニケーション不足により、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが課題となっている。	●地域の営農活動、行事予定等をデジタル化や地域版カレンダーにより情報発信し、住民参加を促す。 ●古民家を活用した地域拠点や憩いの場によるコミュニケーションの向上を図り、地域で楽しく生活ができる共生社会づくりを進める。	●日常生活の利便性向上や地域活動、災害対策等を効率的に伝達する手法として、地域版のデジタル化を実現。 ●古民家や未利用地を活用し、地域の交流拠点や憩いの場を創出。

活動に関連する他の施策

- ・多面的機能支払交付金
- ・西播磨ブランド育成・創設支援事業

事業費

- ・令和6年度：5,343万円
- ・令和7年度：6,480万円

23

全体プロセス（取組実績とその効果）

豊かな郷づくり協議会（兵庫県赤穂市）

1年目（令和6年度）

ワークショップや各班会議を開催し、将来ビジョン策定を通じて、地域の課題や魅力が明らかとなった。また、地域住民相互のコミュニケーションが深まったことにより、団結力が強まり、活動の方向性が定まった。

農用地利用の将来計画の策定。
年間を通じた収益確保のための特産品開発。
⇒組織強化のための勉強会や後継者育成のための人材育成を実施した。特産品開発として、ニンニク、シイタケ栽培に取り組んだ。

赤穂ふれあいの森活性化に関する取組。
生態系や環境との共生のための計画策定。
⇒対象地域の施設状況を調査し、補修・保全計画や、調査対象となる動植物の特定及び実施と、その保全計画の検討が進んだ。

情報伝達のデジタル化の実施。行事・農作業等を掲載した地域版カレンダーの作成。
古民家、未利用地の利活用方法の方針策定。
⇒電子回覧板や地域版HP作成できた。また、古民家活用に向けた体制等の検討を行った。

豊かな郷づくり協議会

事務局
(会長 1名、副会長 2名、事務局員 1名、監事 2名)

《各班の取組》

農用地 保全部 - 農業企画班 - スマート農業班 - 農業施設班 - 特産物開発班	・農用地利用の将来計画策定 ・営農組合の組織強化 ・6次産業化、法人化計画策定 ・生産・加工・販売拠点施設整備計画策定 ・人材育成・養成計画策定 ・スマート農業の導入技術の選定 ・圃場管理システム作成 ・ストックマネジメント計画作成 ・ブランド化の実証 ・新商品開発
地域 資源活用部 - 赤穂ふれあいの森班 - 生態系保全班	・赤穂ふれあいの森の管理・運営計画策定 ・赤穂ふれあいの森HP作成 ・パンフレット作成 ・散策マップ更新 ・生態データ調査 ・生態系マップ作成 ・生態系生物調査・保全計画策定 ・PRイベント実施
生活 支援部 - 地域コミュニティ班 - 憩いの場づくり班	・地域HPや情報伝達実証 ・地域情報伝達計画策定 ・地域版カレンダー作成 ・憩いの場計画策定（空き家活用等）

24

各班会議が活発に討議を開始



25

活動状況

農用地保全部

地域資源活用部

生活支援部



26

生活支援部

地域コミュニティ班の取り組み

【参加団体】
自治会、営農組合、消防団、法人会、獅子舞保存会、豊かな郷づくり協議会（RMO）

【参加人数】 131名

【活動内容】
例 会：1回/月 第3金曜日
勉強会：1回/2か月（6回開催）

【利活用展開】
①電子回覧板
②行事出欠届
③防災訓練
④地域内資料整理書庫
⑤ホームページ
⑥買い物助けたい
⑦施設予約システム

憩いの場班の取り組み

【利活用展開】
①事務局
②地域拠点交流センター
③飲食・喫茶コーナー
④各種団体事務所
⑤郷土資料館
⑥農業体験拠点
⑦加工場

【活動内容】
住民アンケート調査、耐震診断、活用計画、他都市視察等

古民家の利活用

野外広場
(喫茶・バーベキュー等)

談話室

昔の農機具

27



28



農村RMOの取り組みの推進に向けた全国研修会

農村RMOに向けた取組

2025年10月22日

特定非営利活動法人みんなの集落研究所

首席研究員 阿部典子



特定非営利活動法人

みんなの集落研究所

みんなけん

本所 岡山市北区建部町福渡947

Web : <http://npominken.jp/>

設立 : 2013年4月1日 (NPO法人設立日)

理事 : 3名 (うち1名会長)

監事 : 2名 評議員 : 9名

職員数 : 8名 (うち、非常勤1名)

事業内容 :

- ①個人・家族の課題解決の仕組みづくり
- ②集落・組織の課題解決の仕組みづくり
- ③地域を支える人材の支援・育成

年間事業規模 約5,000万円

● 地域自治づくり

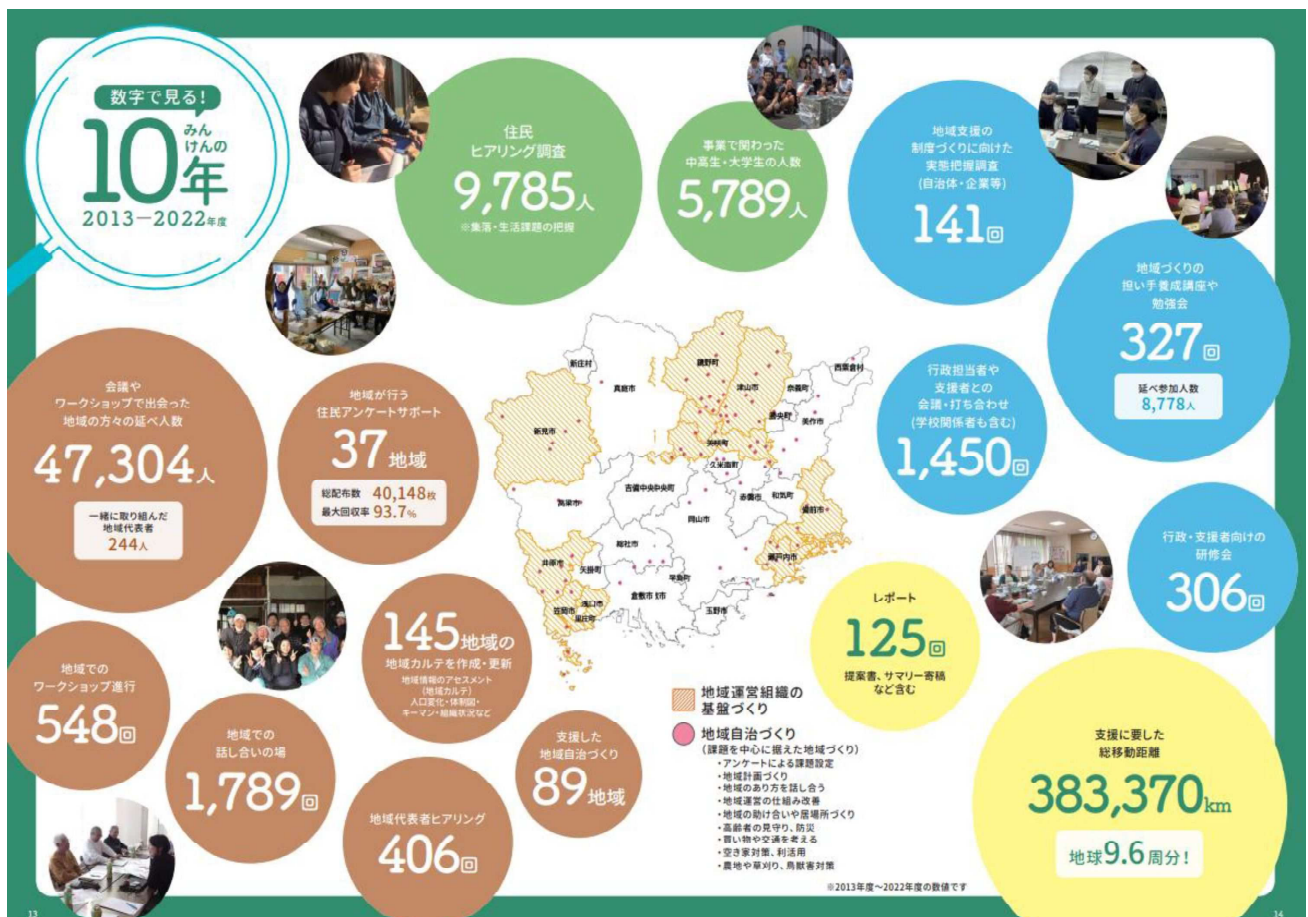
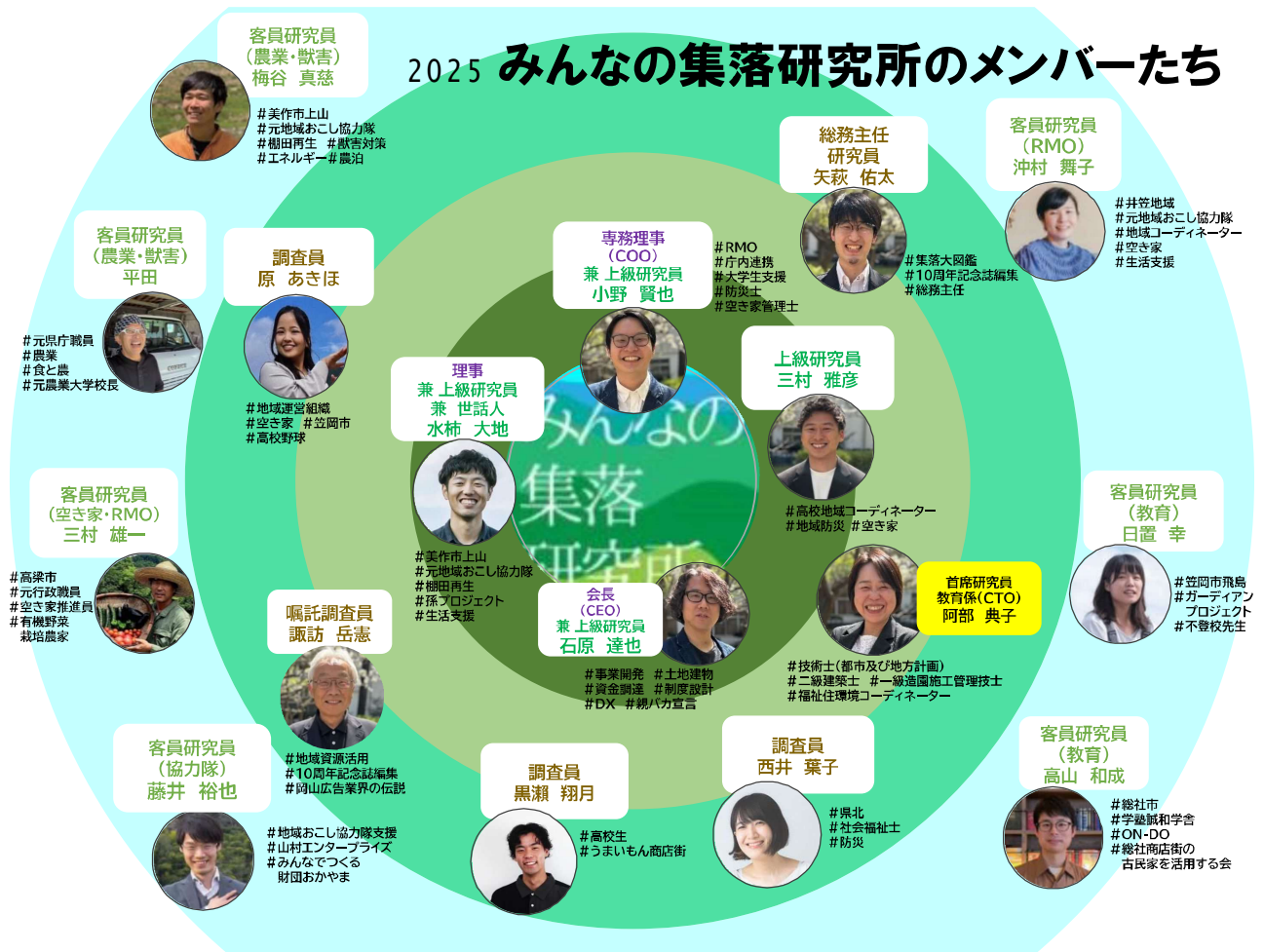
- = 課題を中心に据えた地域づくり
- ・アンケートによる課題設定
- ・地域計画づくり
- ・地域体制の再構築
- ・小さな拠点づくり
- ・助け合い(生活支援・移動)や居場所
- ・空き家



地域運営組織の基盤づくり



2025 みんなの集落研究所のメンバーたち



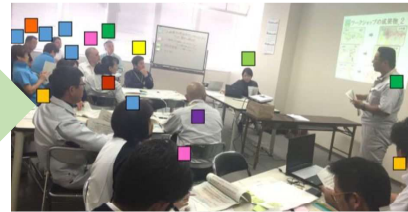
だれもが、そこに住みたい、暮らしたいと思う場所へ住み続けられる、
その選択ができる安心感と、その希望を実現する支援

【モットー】

地域での話し合いの場づくり、地域組織の見直し・再編、
アンケート調査、ヒアリング調査、事業化支援



地域運営組織との協働のための
行政庁内連携のご支援



地域における主要課題である「交通」「空き家」「福祉(地域支援)」「
教育(学校)」に関する支援の取り組み



地域おこし協力隊・集落支援員の導入支援
ネットワーク化のサポート



みんなの
集落
研究所

地域に
買い物を！

アンケート
からの地域
づくり

いる
地域

地域の
支事
支え合いと
生きがい

などなど♪

地域の助
け合い
しくみ

通院などの
移動

多世代
参加の
地域づくり

農地
新規就農者
獣害対策

見守り

人が育てら
れる地域に
子ども・高校生
大人も

運営体制の
見直しを

地域主体の
計画づくり
ビジョン共有

つどいの場
から

空き家
×居場所
×移住受入

地域のあり
方を
話し合う

防災



地域の一体的な取組みを支える



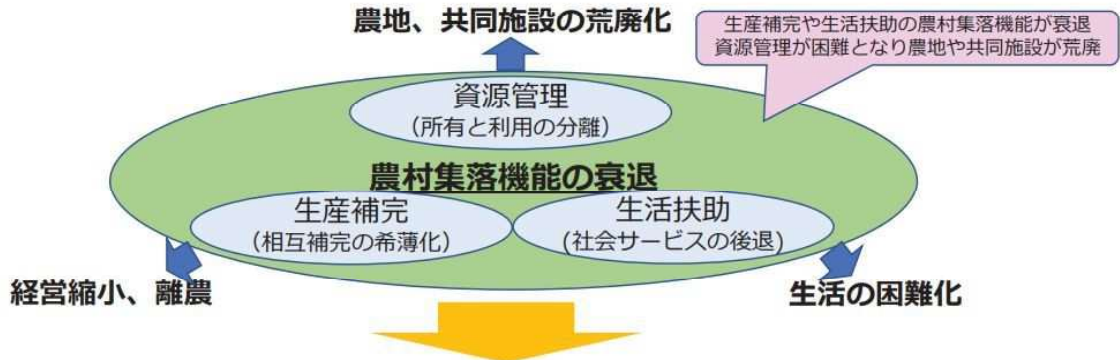
地域における 課題解決への エンパワメント

||

地域が自ら課題に向き合い、
自ら行動しはじめること
を支える

農村地域での集落機能の低下と地域運営組織の必要性

- 中山間地域では、高齢化・人口減少の進行により、農業生産活動のみならず、**地域資源（農地・水路等）の保全や生活（買い物・子育て）など集落維持に必要な機能が弱体化**。
- 農家、非農家が一体となり、生産、生活扶助、資源管理に取り組むことで、地域コミュニティの機能を維持・強化することが必要。



3つの集落機能を補完する地域運営組織（RMO）が必要

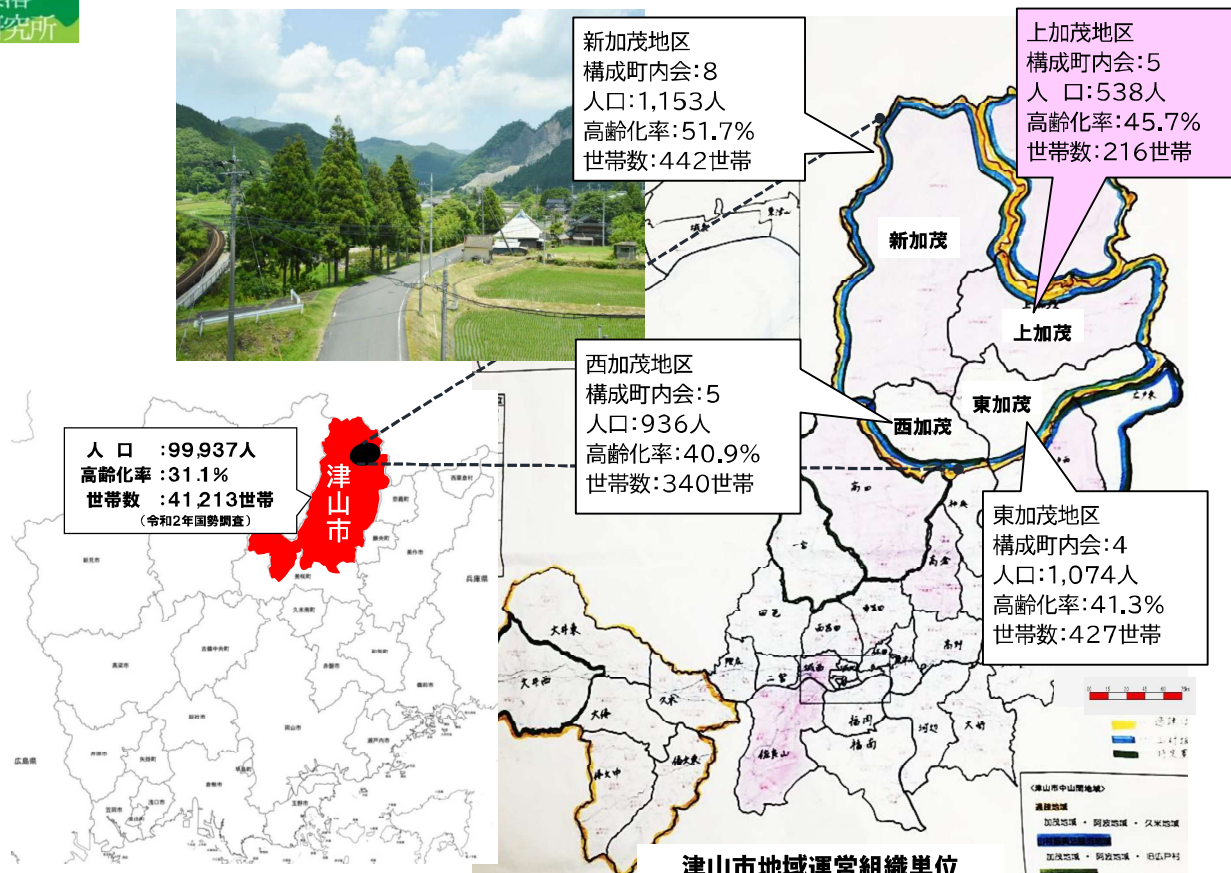
地域運営組織とは、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織。

RMO: Region Management Organizationの略

(例) ○○まちづくり協議会、○○地域づくり協議会、○○地域協議会、○○地域運営協議会 等



津山市旧加茂町上加茂地区概要





この冊子の使い方

「どうやったら前向きな話し合いができる？」

はじめに

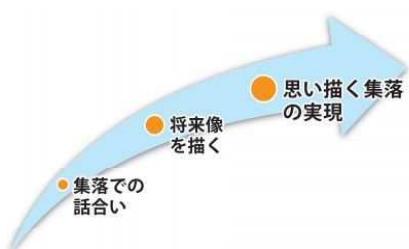
皆さんの集落の将来はどうなっていくのでしょうか？
これから5年後、10年後の集落について皆さんで考えてみませんか？

住みやすい集落・自慢できる集落・鳥獣害の心配の無い集落・安全な
集落・美しい景観のある集落・笑顔あふれる集落。

そんな集落の将来を描くために、今、皆さんで出来ること・やらなければなら
ないことを具体的に考えていきましょう。

思い描く将来像を目指すために、地域の問題を自分のこととして捉え、納得
出来る計画を作成するためには、集落みんなで話し合いを行い、集落みんなの
合意形成が欠かせません。

皆さんが主体性を持ち、皆さんの住む集落のより良い将来のために、第一歩
を踏み出す糧として、この冊子をお使いいただけたら幸いです。



話し合いを進める時のルール・コツ

集落での話し合いのコツ 5ヶ条	3頁
其の一 「何のために集まっているかを常に確認」	4頁
其の二 「みんなが楽しい雰囲気」	5頁
其の三 「色んな人の色んな意見を認める」	6頁
其の四 「自分事になれるように」	7頁
其の五 「まず小さなお試しから始めてみる」	8頁

地図を
使って

地図を使った話し合い

地図を使った話し合いの進め方	9-10頁
地図ワーク① 現状把握	11-12頁
地図ワーク② 未来予想図	13-14頁

集落戦略への落とし込み

集落戦略の書き方 ～中山間地域等直接支払制度～	15-17頁
(参考)加算メニューについて	18頁



集落での話合いのコツ 5カ条

地域の抱える様々な課題について話合い、
計画へつなげるためのコツ

其の一 何のために集まっているかを常に確認

何のために集まっているのかわからないと時間ももったいないよう
話合いの目的を確認して気持ちを一つに



4頁へ▶

其の二 みんなが楽しい雰囲気で

緊張していると意見も出にくいよね
活発な意見は明るい雰囲気作りから



5頁へ▶

其の三 色んな人の色んな意見を認める

集まる人は十人十色
たくさんの方から気付かなかった意外な発見も

6頁へ▶

其の四 自分事になれるように

他人事ではなく、これは自分たちの話。
自分事として話し合える工夫は、具体化・見える化



7頁へ▶

其の五 まず小さなお試しから始めてみる

「話し合いばあ もう飽きた」という声が聞かれたらチャンス！
たくさん意見が集まったら気軽に始められることからやってみよう

8頁へ▶

-3-

其の一 何のために集まっているかを常に確認

黒板などで板書がポイント！「報告と感想」から「話し合い」に

NG

今日は
何の会？

今何を話し
たいの？

大きな声の人の話しが
聞こえない……
いつまでかかるの？

会社だけ責任重大の
ど……どうしたらいいの？

OK

見てわかる

会が進めやすい

- 目的や議題は毎回板書。終了時間を書いてもgood
- 今日話し合うことがひと目で分かる
- 出てきた意見が分かりやすくなる
- 「発言した人」より「発言された意見」に注意が向く
- 意見が言いやすくなる
- 話し合いで決まったことが明確になる

わからないことを尋ねやすいし、
意見も言いやすくなったね

話し合いの様子は来れなかった方への共有も大事！

- ・活動目的の紹介
- ・地域で話し合った内容や決まったこと
- ・今後のスケジュール など

情報共有することで話し合いに参加できなかった人にも
理解し興味をもってもらえきっかけにもなります。



回覧板や地域新聞、口コミやSNSなどを活用して地域のみなさんに取組み
を伝える工夫をしてみましょう！

-4-

其の二 みんなが楽しい雰囲気です

はじめが肝心！ まず楽しい雰囲気づくりを

話し合いに参加される方の中には、不安や緊張を感じる人もいます。
雰囲気を和らげコミュニケーションを取りやすくしましょう！
その後の話し合いも円滑に進みます。

NG



腕を組んで
笑わないと
機嫌が悪く見えますよ

OK



口角をあげて
楽しそうに話す人
人の話にうなずく人が
増えると全体が楽しい
雰囲気に

自己紹介の工夫

今更、自己紹介もなかなら

話し合いに参加する人みんなが
よく知り合った人達ですか？
参加者の中に遠慮している人は
いませんか？

たまには楽しく自己紹介を
してはどうでしょう

名前・所属だけでなく、
みんなが楽しく答えられるお題で
和やかに話をスタート！



意見を聞く時も楽しく

○ 意見をもらう順番も楽しく♪

「一番最近生まれた人から～」
「一番薄着の人から～」 など

○ 道具の工夫で明るく意見交換

声の小さい人や進んで意見を言えない人
もはたあげゲームなどを取り入れること
で意思表示ができ、楽しい雰囲気でお話
いに入ることができます。

今困っていることは？
1 京利リ・水産そうじなど
2 高齢者
3 周辺農地の荒廃
4 若い手問題
5 その他

例えばこんな質問で
はたあげ



質問の選択肢から
色紙を一枚に上げる
ことで全体の意向が
分かる

-5-

其の三 色んな人の色んな意見を認める

多様な意見を認める場であることを確認し合おう

話し合いのルール

1. 人の話にしっかり耳を傾けましょう。
2. 聞いているだけでなく、
ひとつは必ず自分の意見を言しましょう。
3. 人の批判や、せめることはやめましょう。
4. お題に沿って話をすすめましょう。
5. 肩書きや社会的地位に関係なく、
平等に人それぞれの意見を尊重しましょう。

話し合いのルールを
毎回確認し合うことで、
みんな安心して
話し合いに参加できる！

多くの人の見方を共有することで全体が正しく判断できる



一人では思いつかない解決策やアイデアも出てくる



-6-

其の四 自分事になれるように

他人事から自分事へ！ 前向きな話合いの工夫を

工夫①：自分たちの言葉で！

- 抽象的な言葉で難しく話すのではなく、自分の言葉で自分の集落のことを言葉なく話すことが大切です。
- 自分の集落の地名や場所など分かりやすい言葉で確認し合いながら話合いを進めてみましょう。

NG



抽象的で難しい言葉
「広域化」「高齢化」
「国の施策が……」
「コンセンサス」
いつまでたっても
ことが進まない……

OK



具体的ですぐわかる言葉
「〇〇地区全体で……」
「△△集落で耕作しているのは70代がほとんど」
「ここそここのことをまずは把握」
⇒自分たちのことの話合いが始まる

工夫②：見える化！

- 具体的な場所や耕作者の話になると、分かる人しかその話に参加できない場合があります。それを防ぐには「見える化」です。
- 特に地図の活用は効果的です。それぞれが知っていることを地図に落とし込んでいくことで、その範囲の全ての情報が一目で分かります。
- 一人一人が分かる情報を書き込んでいく作業ですので、楽しく作業しながら自然と話合いも活発になります。
- 現地を見に行き話すこともおすすめです。



「誰か」の「部分」が集まって
「範囲全体の情報」が一目瞭然！



具体的な方法は9～14頁を参考に ▶▶

-7-

其の五 まず小さなお試しから始めてみる

話合い疲れは「これが何になるん？」という思いから

話合いを重ねていると「話合いのための話合い」のように感じる場合があります。本当はこれからの自分たちの地域のための話合いなのに……。そんな時は、これまでの話合いで出た意見から、まずは気軽に始められることを「小さなお試し」としてやってみましょう！

話合いから取り組みにつながった例



「あのため池の北側どうなってる？」という事から、みんなで集落歩きをして危険箇所マップを作ることに



「若い人も草刈り覚えたいけど家では教わりたくないみたいよ」という話から、「中高生～若い人対象の体験的な草刈り講習会」をしてみることに！



「人が歩くとその匂いでザルが暫く臭くなるらしいで」から、三世交代のボクノックをしてみた



防災の話合いから、いつもの集落の忘年会を、避難を想定して話合う「防」年会にしてみた

小さな会話の
キャッチボールから
色々なアイデアが生まれ、
人と人のつながりが広がりに
次につながります。

-8-

地図を使った話合いの進め方

1. 話し合う範囲を決めよう



2. 話し合う仲間を決めよう

3. 話合いに向けた準備をしよう

◆ 集落の地図

話し合う範囲を行政に伝え地図を準備してもらいましょう。

◆ 地図に、描いていく道具

次ページ※参照

◆ 用紙や付箋

話合いで出た意見を書き留めたり、それぞれの意見を地図に貼ったりします。



A3・A4
用紙

付せん
(4色)



地図ワーク① 現状把握

現状を地図に描きながらみんなで確認します

耕作地、耕作放棄地、耕作者
鳥獣被害や水路の要対策箇所 など
それぞれが分かることを地図に落とし込んでいきます。



具体的な方法は11・12頁を参考に ▶▶

地図ワーク② 未来予想図

5年後10年後「どうなりそうか」「どうなっていたらいいか」
未来予想図を描いていきます

担い手へ任せられる土地、守ることが難しい農地、鳥獣被害対策箇所 など
現状地図の上に半透明の紙を置き未来の地域のシミュレーションを描きこんでいきます。



具体的な方法は13・14頁を参考に ▶▶

一つの地図で状況が一目瞭然！

いろいろな未来を想像しながら具体的に話し合える！

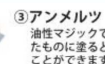
※地図ワーク物品

① 透明ライティングシート

地図の上に重ねて描くことで、消したり描いたり修正することが出来ます。

② 油性ペン(8色)

使用する色を確認し準備



① 透明ライティングシート

② 油性ペン(8色)

③ アンメルツ

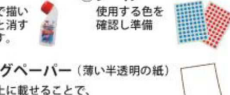
油性マジックで描いたものに塗ると消すことができます。

④ トレーシングペーパー(薄い半透明の紙)

現状を描いた上に載せることで、比較・確認しながら未来予想図を描くことができます。

⑤ シール

使用する色を確認し準備



③ アンメルツ

④ トレーシングペーパー(薄い半透明の紙)

⑤ シール

-9-

-10-

岡山県人材育成講座 地域戦略の立て方編

2021年度 加茂の今後を考える会の発起人メンバー等が参加し、地図ワークを実施

1回目
11/18

地域での話し合いのススメ

・オリエンテーション ・美作市上山地区での取り組み ・取り組みたい地域とその範囲の確定

2回目
12/20

地域を知ろう

・前回の振り返り ・地図ワーク実践
・振り返りと感想共有



3回目
1/26

地域の戦略立て

・前回までの振り返り ・地図ワーク実践 ・地域戦略(5年後の未来希望図) ・支援策のご紹介

加茂の今後を考える会発足

こうした研修は地域の代表者のみが出席するケースが多いが、「水路」問題や「鳥獣害」問題など、農業者だけの問題ではなくなっている中で、多くの方が話し合いに参加する必要性を感じ、加茂地域4支部それぞれ実状や課題は異なる中でも、それらを共有しながら、全体で地図作業や話し合える場を設け考えていくことができないかと、加茂地域全4支部に声を掛け、「加茂の今後を考える会」をスタートしました！

令和4(2022)年度 加茂の今後を考える会

●月に1回ペースで加茂の今後を考える会を開催

1回目
5/26

参加者:18人 「農地地図ワークの実践！」



2回目
6/25

参加者:43人 「困りごとの整理と今後取り組みたいことのアイデア出し」

3回目
7/22

参加者:23人 「農地地図ワーク実践(5年後の姿)」

4回目
8/27

参加者:17人 「お題に合わせた事例紹介と各地区話し合い」

5回目
10/22

参加者:26人 「多面と自治協についての市からの説明」



6回目
11/26

参加者:24人 「防災についての話し合い」

7回目
1/14

参加者:30人 「地域でやってみたいこと！話したいこと！話し合い」

8回目
2/18

参加者:32人 「各地区話し合い+地図ワーク」

鳥獣害勉強会
3/11

参加者:20人 「イノシシ・シカの生態を知ってみんなで対策を考えよう」

令和4(2022)年度 加茂の今後を考える会→各地区での取り組み



12月

地区間合同の防護柵設置

知和の柵設置を上加茂地区住民自治協議会で
地域づくりに関心のある大学生ボランティアと



加茂の今後を考える会にて
新加茂での防災のワークの企画

→3/21「新加茂の防災を考える会ー大雪編ー」開催！



多面的機能支払い制度申請を広域に

→説明会実施の企画

→2/28 多面的申請に向けた勉強会
上加茂地区住民自治協議会で

令和5(2023)年度 加茂の今後を考える会

1回目
5/22

参加者:40人 「メッシュ柵の申請・狩猟免許取得・自走式草刈り機について」

R5:2回目
6/22

参加者:30人 「大雨被害の地図ワーク実施」



R5:3回目
7/24

参加者:25人 「災害時の活用できる資源出し」

R5:4回目
8/21

参加者:27人 「加茂の宝もん うちの自慢100出そう！」

R5:5回目
9/22

参加者:22人 「加茂の宝もん100！ 追加と整理」



R5:6回目
10/24

参加者:25人 「テーマに合わせて話し合いと共有と取り組み紹介」

R5:7回目
11/24

参加者:24人 「空き家・高校生の地域参加・農村RMOなどの情報共有」

R5:8回目
12/22

参加者:17人 「加茂の宝もんをもとにこれからの活動を考えよう」

R5:9回目
2/22

参加者:22人 「子ども向けの体験・企画を考えよう」

R5:10回目
3/18

参加者:24人 「加茂の活動カレンダーを考えよう」

令和6(2024)年度 加茂の今後を考える会

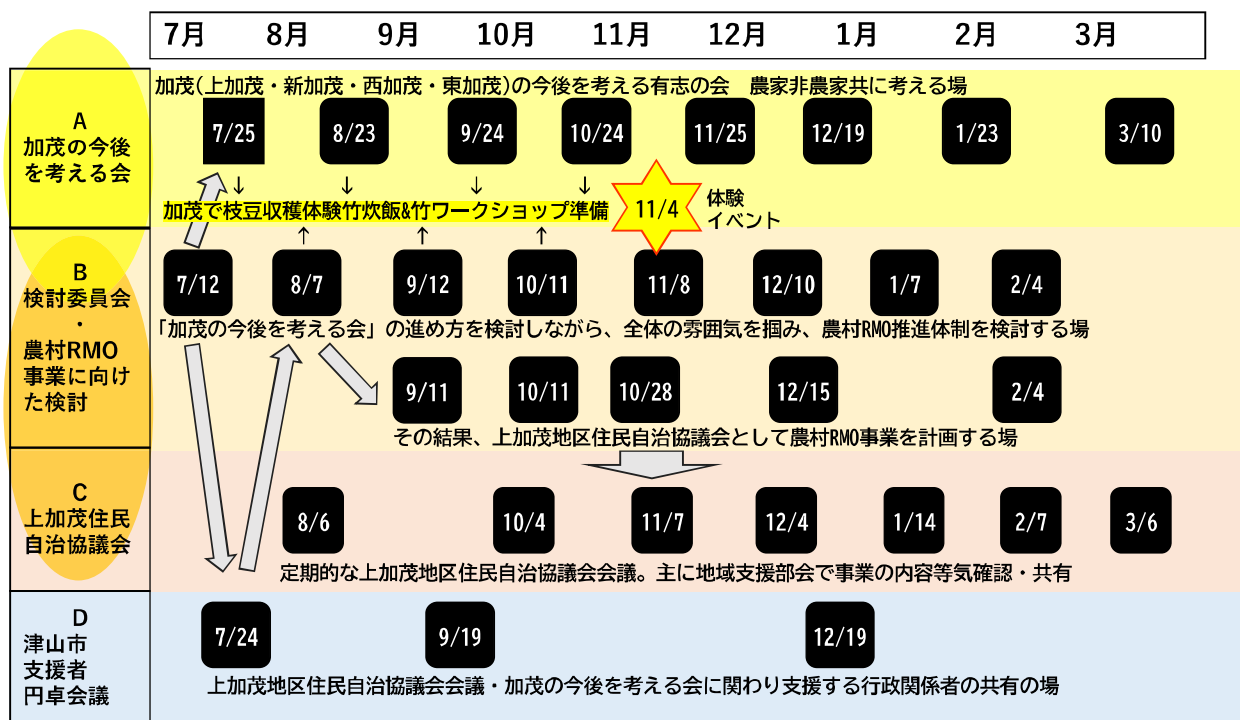
1回目 4/23	参加者:28人 「カレンダーをもとに子ども向けの体験を考えよう」
R6:2回目 5/23	参加者:23人 「6月の泥んこ遊びの作戦会議」
R6:3回目 6/17	参加者:20人 「6月の泥んこ遊びの最終確認、地域計画について」
体験企画① 6/22	参加者:33人 「加茂でジャガイモ掘り&田んぼ泥んこ遊び！」
R6:4回目 7/25	参加者:20人 「第2弾参加型イベントのアイデア出し」
R6:5回目 8/23	参加者:18人 「第2弾参加型イベントの詳細決定」
R6:6回目 9/24	参加者:21人 「地域計画協議の場についての共有・11/4用チラシ完成」



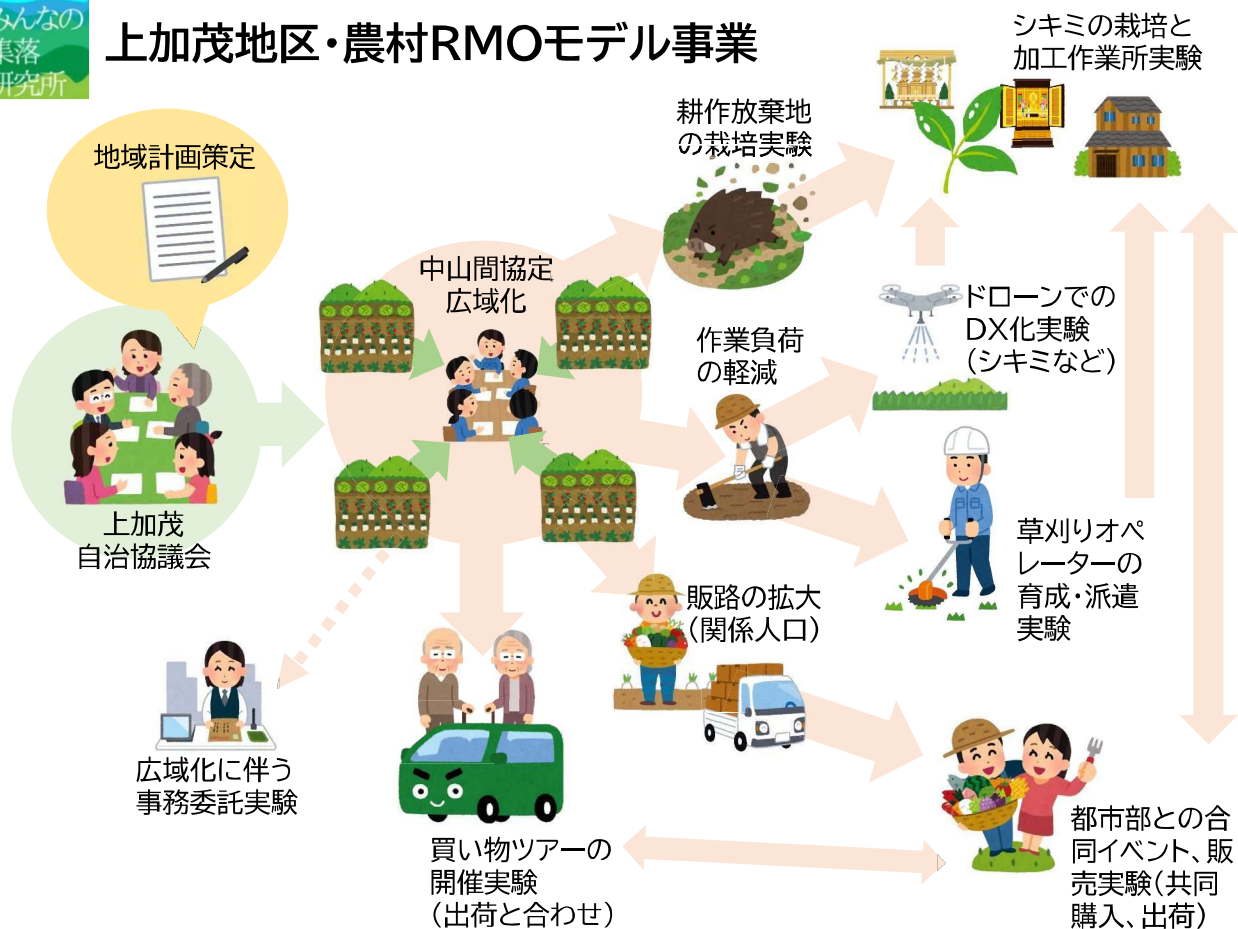
令和6(2024)年度 加茂の今後を考える会

7回目 10/24	参加者:19人 「加茂農地の今後を考えよう、11/4イベント最終打合せ」
体験企画② 11/4	参加者:46人 「加茂で枝豆収穫体験&竹炊飯・竹ワークショップ！」
R6:8回目 11/25	参加者:19人 「加茂農地の今後を考えよう、11/4企画振り返り」
R6:9回目 12/19	参加者:16人 「農地や農業に関する意見交換」
R6:10回目 1/23	参加者: 「中山間直払第6期についての話し合い」





上加茂地区・農村RMOモデル事業



参考資料

- ・ 農村 RMO と活動組織等が連携して地域の活性化等に貢献
を図っているモデル事例
- ・ 活動組織と外部をつなぐマッチングサイト（PR）



地域の維持・活性化に向けた新たな取組を下支え

土佐天空の郷保全会（高知県本山町）

- 本山町は、高知県北部の四国山脈の中央部に位置する中山間地域であり、昔ながらの棚田が経営基盤。
- 農業者が減少する中、中山間地域等直接支払交付金を活用しつつ、農地の保全に取り組んできた。
- 令和2年度3月に「土佐天空の郷保全会」を設立。本山町全域を1組織として多面的機能支払交付金を活用。それによって中山間地域等直接支払交付金をさらに有効活用できるようになった。
- 農村RMOモデル形成支援事業を活用し、地域農業の維持・活性化に向けて新たな取組に挑戦。地域の多様な関係者で議論し、畦畔の防草対策、デジタル技術を活用した用水路管理などの実証を行う。
- 実証結果を各団体に継承し、取組のさらなる進化を図っている。

地域の状況や課題

- 集落ごと中山間地域等直接支払交付金を活用し課題に取り組んでいたが、町ぐるみで対応することにより多くの町民の参加や大規模な修繕の対応が可能となるのではないかと視点から、本山町全域を1組織として多面的機能支払交付金を活用。
- しかし、人口減少が顕著であり、集落の戸数減少が進んでいる。早めに手を打たなければ農地維持の体力が限界を迎えてしまうという危機感をもっている。
- また、高齢者の単身世帯や認知症の高齢者が増加しており、安心して生活できる環境づくりが必要。
- 町の将来に向けて新たな取組が求められている。

農村RMOの設立

- 令和4年6月に農村RMO「本山町農村みらい会議」を設立し、町ぐるみで新たな取組に挑戦。
- 農業関係者だけでなく、地域運営も行う集落活動センターも参画。
- 多面的機能支払活動組織は、新たな取組を支える役割を担う。

農村RMOの取組

- 町内全域に声掛けをして、本山町の理想像についてのワークショップを開催。将来ビジョンが作成され、緊急性・重要性の高い内容について実証を行う。

主な実証内容

- 畦畔の防草対策の研究並びに実証
- デジタル技術を活用した用水路管理の実証
- 農業機械のレンタル制度確立
- 堆肥を活用した地域循環型農業の研究
- 直売所・棚田を活用した関係人口構築

- 農村RMOモデル形成支援事業によって、将来に向けた取組の道筋が作られた。
- これに沿って各組織が各種交付金を活用し、取組を具体化。

【地区概要】

- ・ 取組面積：195ha
(田 182ha、畑 13ha)
- ・ 資源量：水路 57.3km、農道 43.5km、ため池 1箇所
- ・ 主な構成員：18集落
- ・ 交付金 約14百万円 (R6)

〔農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)〕

取組の効果

- 集落単位の課題を町全体の課題として捉える意識が生まれた。
- センチピートグラスの吹き付けにより、農繁期の草刈回数を抑えられる可能性。
- 遠隔の水位監視システムにより、水の見回り時間を削減。
- 新規就農者への農業機械のレンタル制度の確立に向け、貸出期間や台数、貸出金額の目安を把握できた。
- 小さな田んぼで活用しにくかった牛糞堆肥をペレット化。



水位監視システム

令和2年度以前

多面的機能支払交付金は1集落のみ取り組み、ほとんどの集落では、中山間地域直接支払を活用して農地の維持を行っていた。

地域の状況

集落ごとに地域課題の解決に取り組んできたが、以下のような課題が顕在化

- ①集落内のマンパワー不足
- ②農地・農業インフラの維持困難
- ③ブランド農産物の課題
- ④地域経済・流通の衰退
- ⑤景観・地域資源の荒廃

Step1 (R2)

土佐天空の郷保全会を設立

- ・本山町を1組織として多面的機能支払交付金を活用。
- ・中山間地域直接支払をその他の取組に活用することが可能になった。



センチピードグラス

Step3 (R7～)

「本山町農村みらい会議」

- ・中山間地域等直接支払制度を活用

【農地保全】

- ③農業機械の共同利用
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）

【地域資源の活用】

- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑧美しい景観づくり
- ⑨地域農産物を活用した加工品開発

【新規】

- ・農産物の付加価値販売（商談会参加等）
- ・鳥獣害対策（防護柵・電柵設置）

「本山町畜産環境対策協議会」

- ・環境保全型農業直接支払交付金を活用

【農地保全】

- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業

【農地保全】

- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業
- ・バクレジットの推進

「土佐天空の郷保全会」

- ・多面的機能支払交付金を活用
- 町内全域の農地保全を行い、新たな取組を下支え。

「高知県・本山町」

- ・地方創生の交付金を活用

【農地保全】

- ①防草対策
- ②デジタル技術を活用した水路管理
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）

- ・農道拡幅整備
- ・水路管理道整備

【地域資源の活用】

- ⑥本山さくら市の維持発展
- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑩農産物の付加価値販売

「本山町」

- ・花のまちづくり基金を活用

【地域資源の活用】

- ⑧美しい景観づくり（芝桜の植栽等）

R4～R6に実施した各事業は各団体に継承し、横展開を計画

Step2 (R4)

農村RMO「本山町農村みらい会議」の設立

- ・令和4年6月に「本山町農村みらい会議」を設立。
- 【構成員】本山町農業公社、集落活動センター2組織、本山町社会福祉協議会、営農組合4組織、農事組合法人、土佐天空の郷保全会、中山間等直接支払事業を活用する集落協定17協定、本山町
- ・町内全域に声掛けをして、本山町の理想像についてのワークショップを開催。

「本山町農村みらい会議」

農村RMO形成モデル支援事業を活用（R4～R6）将来ビジョンが作られ、緊急性・重要性の高い内容について、以下のような新たな取組を行う。

【農地保全】

- ①防草対策
- ②デジタル技術を活用した水路管理
- ③農業機械のレンタル
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）
- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業

【地域資源の活用】

- ⑥本山さくら市の維持発展
- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑧美しい景観づくり
- ⑨地域農産物を活用した加工品開発
- ⑩農産物の付加価値販売

【生活支援】

- ⑪野菜集出荷
- ⑫雇用創出（お仕事バンク）



農村RMOに取り組み地域を活性化

周世美しい村づくり活動組織（兵庫県赤穂市）

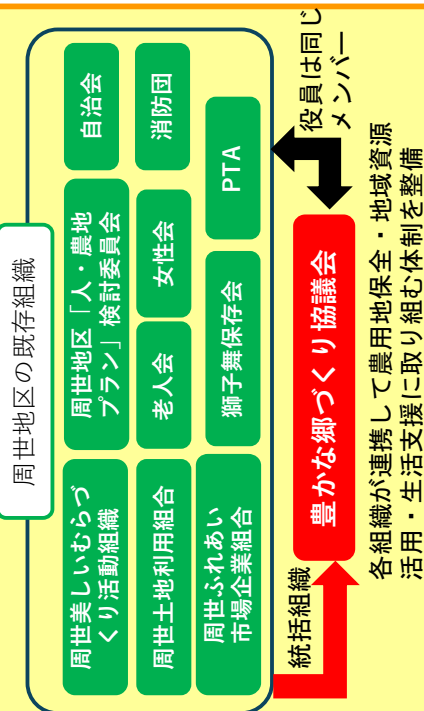
- 周世地区は、兵庫県の西南端、岡山県との県境にある赤穂市の北部に位置する中山間地域であり、地区の南部を山陽新幹線が通っている。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施しているが、農地はほぼ整備完了後40年近くが経過し、省力化に向けた更なる改善が必要になっている。
- また、人口減少や高齢化が進み、空き家の増加や過疎化による農業従事者の後継者・人材不足が深刻化しており、農用地保全や高齢者が安心して暮らせる環境づくりが課題となっている。
- 農村RMOモデル形成支援事業を活用し、周世地区・有年横尾地区の組織を統括再編し、連携する組織体を形成し、農用地保全・地域資源活用・生活支援に取組む体制を整備すべく取り組んでいる。

地域の状況や課題

- 農用地の施設管理や農村の良好な環境を保全するために、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施している。
- 農地は、人口減少が進む中、営農や管理の省力化に向けた大区画化やパイプライン化などが必要となっている。
- 多面的機能支払交付金の対象外の山間部の農地は、用水供給が困難かつ不整形地であり、営農が難しく耕作放棄地となってしまうている。
- 人口減少や高齢化が進み、空き家の増加や過疎化による農業従事者の後継者・人材不足が深刻化しており、農用地保全に加え、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが課題となっている。

農村RMO事業を活用

- 令和3年度に「人・農地プラン」を策定、令和4～5年度に住民主体のワークショップを実施し、地域の魅力や課題について検討。
- 「赤穂ふれあいの森」を共同で管理する有年横尾地区と協力し、広域的な環境保全や地域の活性化を図るべく、多面的機能支払の活動組織が中心となって、令和6年4月に農村RMO「豊かな郷づくり協議会」を立ち上げた。



取組の効果

- これまでは地域の話し合いの回数が少なかったが、農村RMOに取り組むことにより、月に2～3回に増え、地域内のコミュニケーションが活発に。
- 少子高齢化が進行する中での農村の維持や経営的な視点について、多面的機能支払交付金の活動を越えて、非農家も含めた住民みんなで問題を共有し、重要性を認識することができた。
- 新たな特産品の開発に向け、ニンニク、落花生等の栽培の実証を行う。
- 草刈の省力化に向けて、リモコン草刈機を導入。活用に向け実習を行った。
- 住民への双方向の情報伝達システム「結ネット」を地域の人材を活用し開発。従来の回覧板より、短時間で情報伝達が可能になった。

【地区概要】

- ・ 取組面積：33ha
(田 33ha、畑 0ha)
- ・ 資源量：水路 10.4km、農道 3.1km、ため池 0箇所
- ・ 主な構成員：農業者、営農組合、水利組合、自治会、子供会、老人クラブ、消防団
- ・ 交付金 約3百万円 (R6)

〔

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)〕

Step1 (H19～)

農地・水・環境保全向上 対策に取り組む

- ・平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組む、共同活動を実施。
- ・ほ場整備済みの33haが対象。

6次産業化の推進

- ・構成員の女性グループによって運営されている直売所「周世ふれあい市場」も参画。
- ・地域の農産物を活用した弁当やシフォンケーキの商品開発などに取り組んでいる。

課題

地域人口の減少により、農業従事者の高齢化・減少、営農組織の弱体化、後継者の育成に課題



ワークショップの開催

Step 2 (R3)

人・農地プランの策定

- ・周世自治会と周世土地利用組合で、地域農業の人と農地に関する将来の方向性を定めた。

＜農村RMOに取り組むにあたっての苦労した点＞

- 農村RMOでの「取り組み内容」、「どのような成果が得られるか」、「多面的機能支払交付金、地域計画との兼ね合い」等、事業制度について構成員に理解してもらったために粘り強く説明。1年たってようやく浸透してきた。



リモコン草刈機実習

生活支援

- ・住民への双方向の情報伝達システム「結ネット」を開発。従来の回覧板より、短時間で情報伝達が可能になった。



デジタル化検討会



ドローン操作・実習

Step 3 (R4～R5)

住民主体の ワークショップの開催

- ・自治会を中心に県・市の支援を受けながら地域の魅力や課題について検討を重ねる。
- ・その結果、地域課題を総合的に考えていくことになった。

- ・多面的機能支払の活動組織「美しい村づくり活動組織」と農村RMO「豊かな郷づくり協議会」は、代表を含め構成員は重複している。

Step 4 (R6)

農村RMO「豊かな郷づくり協議会」の設立

- ・令和6年4月に農村RMO「豊かな郷づくり協議会」を設立。
- ・地域の活性化に向けて、農用地保全・地域資源活用・生活支援に取り組む。

Step 5 (R6)

将来ビジョンの策定

以下の取組を実践していくことを定めた。

- ① 農用地を次世代に引き継ぐための維持保全と組織体制の確立
- ② 赤穂ふれあいの森の活性化や生態系の保全
- ③ 地域コミュニティを充実し、安心して暮らせる仕組みづくり

今後の展望

- 後継者育成や法人化、6次産業化、スマート農業の導入による省力化を行い、農業経営の安定化を目指す。
- 情報伝達システムの利用により、円滑なコミュニケーションが図れる地域を目指す。



想いを引き継ぎ、地域を守る取組の中核となる

滝・金屋農業振興会（京都府与謝野町）

- 滝・金屋地区は、京都府北部の日本海に面する与謝野町の南西部に位置する中山間地域である。農地のほとんどは水田であり、水稻や大豆を中心に営農を行っている。
- 滝・金屋農業振興会は、多面的機能支払交付金及び中山間直接支払を活用し、農地保全に取り組みんできたが、人口減少が激しく、省力化を行うことが必須になっていた。
- 持続可能な地域づくりと農業振興による地域活性化を目指して平成27年に設立された「与謝地域山村活性化協議会」において、令和4年から農村RMO事業に取り組む。
- ドローンによる農薬散布や直播によって、農作業の省力化に取り組んでいる。

地域の状況や課題

- 旧与謝村（与謝地区・滝地区・金屋地区）の人口は現在約1200人。10年前から2割程度減少している。約30年後には、現在から4割程度減少することが想定され、大きな課題となっている。
- 農業などの地域産業の労働力不足、人口減少による購買力の低下により、地域の疲弊が加速していくことが予測される。

農村RMOの取組

- 『少なくなる人口で農地保全と農業振興を図る』、『魅力ある農村づくりを進める』ことを目的に、農村RMO形成推進事業に取り組む。
- 滝・金屋農業振興会事務局は、「与謝地域山村活性化協議会」の事務局も担っており、農村RMO形成推進事業の実施に向けて、各組織との調整役となっている。

滝・金屋農業振興会の取組

- 滝・金屋農業振興会の設立時には、当時30代の若手も参加。経験を積み現在の中心メンバーとなっている。
- 滝・金屋農業振興会は「与謝地域山村活性化協議会」事務局を担いながら、農用地保全、地域資源活用を担当。
- 構成員である地元企業の（有）あぶるふあーむ、（有）誠武農園は、地域農業の担い手として農地を保全。
- （有）あぶるふあーむでは、滝・金屋農業振興会が購入したドローンを活用した農薬散布や、直播栽培の実証に取り組んでいる。
- 社会福祉法人よさのうみ福祉会と農福連携し、多面的機能支払交付金の活動への参加、農業や加工品製造を行っている。

取組の効果

- 地域の人材を活用し、地図情報システム（GIS）を整備。誰がどの農地を耕作しているか瞬時に把握可能に。耕作者の農地の意向も反映でき、地域計画作成にも役立っている。また、長寿命化で整備した時期や事業費もGISにプロットし、見える化することが可能に。
- ドローンの有効性が確認でき、組織内で免許を取得し今後本格的に取り組んでいく方針を定めることができた。

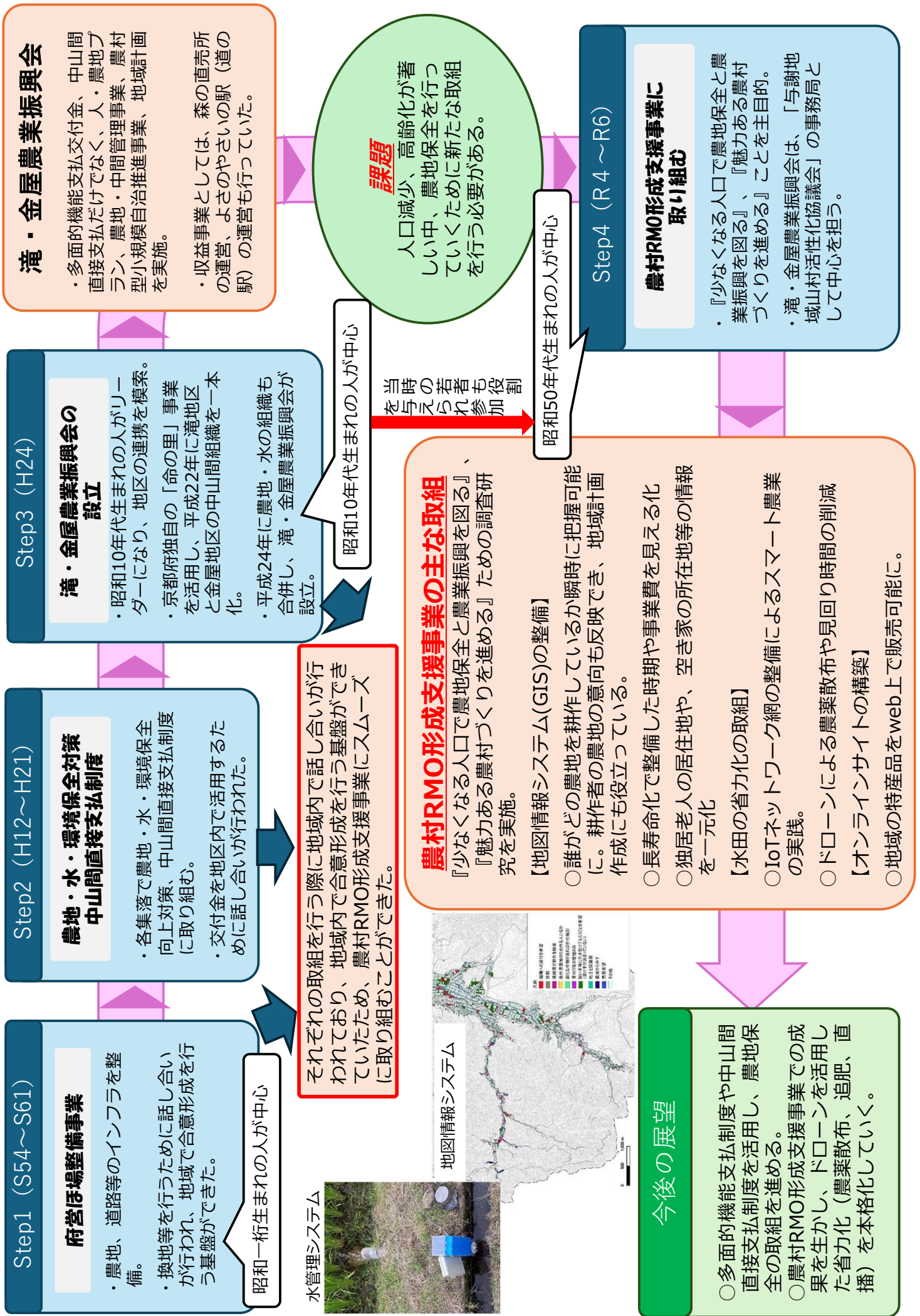


【地区概要】

- ・ 取組面積：104ha
（田 99.5ha、畑 4.4ha）
- ・ 資源量：水路 46.7km、農道 19.8km、ため池 0箇所
- ・ 主な構成員：農業者、農業組合、自治会、よさのうみ福祉会、（有）あぶるふあーむ、（有）誠武農園 など
- ・ 交付金 約8百万円（R6）

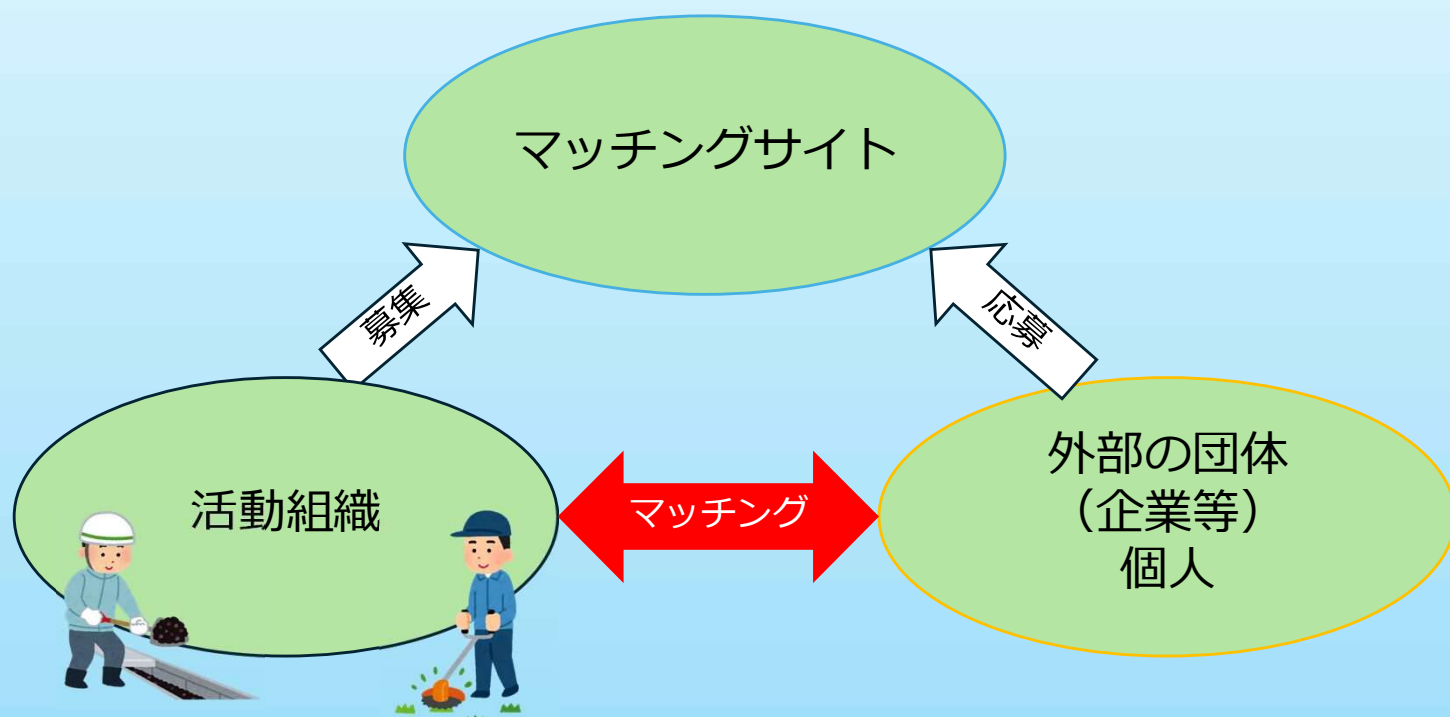
〔農地維持支払

資源向上支払（共同、長寿命化）〕



活動組織と外部をつなぐマッチングサイトを作ります

・多面的機能支払交付金では、活動組織がパートタイム労働者を募集し、地域の共同活動に参画いただくことが可能です。



・都道府県推進組織及び全国土地改良事業団体連合会が、外部からの支援を受けるためのマッチングサイトを作成します。

（令和8年4月 運用開始予定）

・多くの都道府県推進協議会でこの仕組みを構築しようとして取り組んでいます。

・人材不足でお悩みの活動組織の皆様、マッチングサイトの活用を検討してみてはいかがでしょうか。

・関心のある方、活動組織、企業、団体の方々は、こちらまでお問い合わせください。

連絡先：全国土地改良事業団体連合会 TEL:03-3234-5480

マッチングサイトのイメージ（一例）

- 所定の申込書（後日配布予定）に活動組織の概要、受入可能な時期・作業等を記入し、各都道府県推進協議会に提出します。



- 申込書を基に支援を希望する組織として、全国土地改良事業団体連合会、各都道府県推進協議会のホームページで公表します。

外部からの支援を希望する活動組織リスト

名称	活動場所	活動内容	活動時期
〇〇資源保全会	〇〇村	．．．．	．．．．
〇〇を守る会	〇〇町	．．．．	．．．．
．．．．	．．．．	．．．．	．．．．
．．．．	．．．．	．．．．	．．．．



【都道府県推進協議会が調整を行う場合】

- リストを外部の方々が確認し各都道府県推進協議会に連絡します。



- 推進協議会が受け入れ先となる活動組織を紹介します。

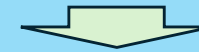


- 外部の作業希望者と直接連絡し打合せを行います。



【『1日農業バイトアプリ daywork』を活用する場合】

- 支援を希望する活動を『1日農業バイトアプリ daywork』に登録します。



- 作業希望者から応募があります。



- 作業者を決定します。



- 作業者と直接詳細を打合せします。



- 実際に活動を行います。

